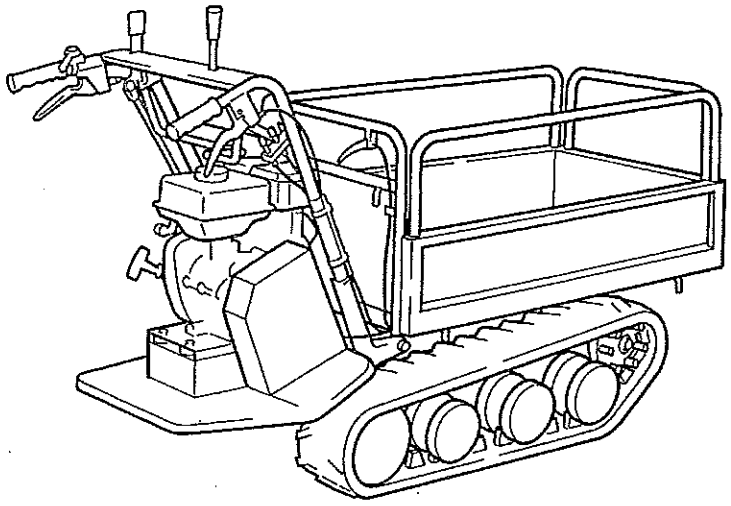
CANYCOM

小型運搬車

BFP307・BFP400

取扱説明書



⚠警　告

この説明書を読んで理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。

この説明書は、本製品の運転または保守・点検を行う場合、いつでも調べられるように大切に保管してください。

3728 6202 000

株式会社 筑水キャニコム

〒839-1396　福岡県うきは市吉井町福益90-1

TEL (0943)75-2195 (代) FAX (0943)75-4396

ユーザーの皆様へ

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。ご使用になる前に、この「取扱説明書」をよくお読みいただいて、正しい取り扱いをしてください。

⚠警　告

本製品には、潜在する危険があることを知らなければなりません。したがって、本製品の運転および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。

⚠警　告

本製品は、農業用の運搬車ですので、それ以外の用途には使用しないでください。公道および公道とみなされる道路での運転はできません。当該道路上での運転による事故および違反につきましては、責任を負いかねます。

⚠警　告

本製品を改造して使用しないでください。また、本体の安全カバー等を取外して運転しないでください。重大な事故の原因となります。

目　　次

1. はじめに　1

1.1　本書の目的について　1
1.2　本書の構成について　1
1.3　本書の警告用語について　2
1.4　本製品に貼付してある警告ラベルについて　2

2. 保証とアフターサービスについて　3

3. 安全運転・作業のための心得　4

4. 各部の名称とはたらき　8

5. 製品仕様　9

5.1　本製品の仕様　9
5.2　工具袋明細　10

6. 運転と操作　11

6.1　始動前の準備　11
6.1.1　燃料の点検と補給　11
6.1.2　エンジンオイル量の点検と補給　11
6.2　始動のしかた　12
6.3　運転のしかた　15
6.4　停止のしかた　17

6.5 ダンプ操作 18
6.5.1 上昇 18
6.5.2 下降 19
6.6 ハンドル角度（高さ）の切換え操作 20

7. 保守（お手入れ） 21

7.1 定期点検表 21
7.2 給油（水）一覧表 25
7.3 消耗品（交換部品）一覧表 25
7.4 給油 26
7.4.1 エンジンオイル 26
7.4.2 トランスミッションオイル 27
7.5 注油 28
7.6 給水 28
7.6.1 バッテリ液（セルフスタータ式エンジン） 28
7.7 清掃 29
7.7.1 エアクリーナエレメント 29
7.7.2 点火プラグ 29
7.7.3 フューエルコック（フューエルフィルタ） 30
7.8 調整 31
7.8.1 Vベルト 31
7.8.2 走行クラッチ 31
7.8.3 ブレーキ 32
7.8.4 サイドクラッチ 32
7.8.5 クローラの張り 33
7.8.6 ベルトストッパ 34
7.9 使用後のお手入れ 34

8. 格納（長期保管） 35

8.1 本機（車両） 35
8.2 バッテリ（セルフスタータ式エンジン） 35
8.3 エンジン 36
8.3.1 フューエルコック 36
8.3.2 エアクリーナエレメントの清掃 36
8.3.3 エンジンオイルの交換 36

9. 不具合発生時の処置 37

9.1 不具合診断表 37

10. 本機の移送 40

＜保証書＞

本書の巻末に添付
※ 本機の取扱説明を受けた後に、受領証と共にお受け取りください。

＜付 録＞

「エンジン取扱説明書」（工具袋に同封）
※ 本書と併せて必ずお読みください。

1. はじめに

1.1 本書の目的について

本書の目的は、本製品について、正しい運転操作および保守・点検方法を知っていただくために詳しい情報を提供することです。
また、本書は、はじめてこの製品を使用される方を対象として制作しています。

1.2 本書の構成について

本書では以下の章に分けて情報を記載しています。

1．はじめに

この章では、本書の目的、構成および本書で使用している警告用語について説明しています。また、本製品に貼付してある警告ラベルについても記載しています。

2．保証とアフターサービスについて

この章では、本製品の保証およびアフターサービスに関する事項を記載しています。

3．安全運転・作業のための心得

この章では、運転時または作業時に必ず守っていただきたい一般安全事項を記載しています。

4．各部の名称とはたらき

この章では、各部の名称とはたらきについて説明しています。

5．製品仕様

この章では、本製品の仕様について記載しています。また、工具袋の明細についても記載しています。

6．運転と操作

この章では、運転前の準備、運転手順および操作方法について説明しています。

7．保守（お手入れ）

この章では、定期点検、給油、給脂、注油、給水、清掃、調整および使用後のお手入れに関する情報を記載しています。

8．格納（長期保管）

この章では、格納（長期保管）に関する情報を記載しています。

9．不具合発生時の処置

この章では、不具合が発生した場合の処置について記載しています。

10．本機の移送

この章では、本製品の移送を目的として、自動車（トラック）へ積降ろしする場合の方法と注意事項について説明しています。

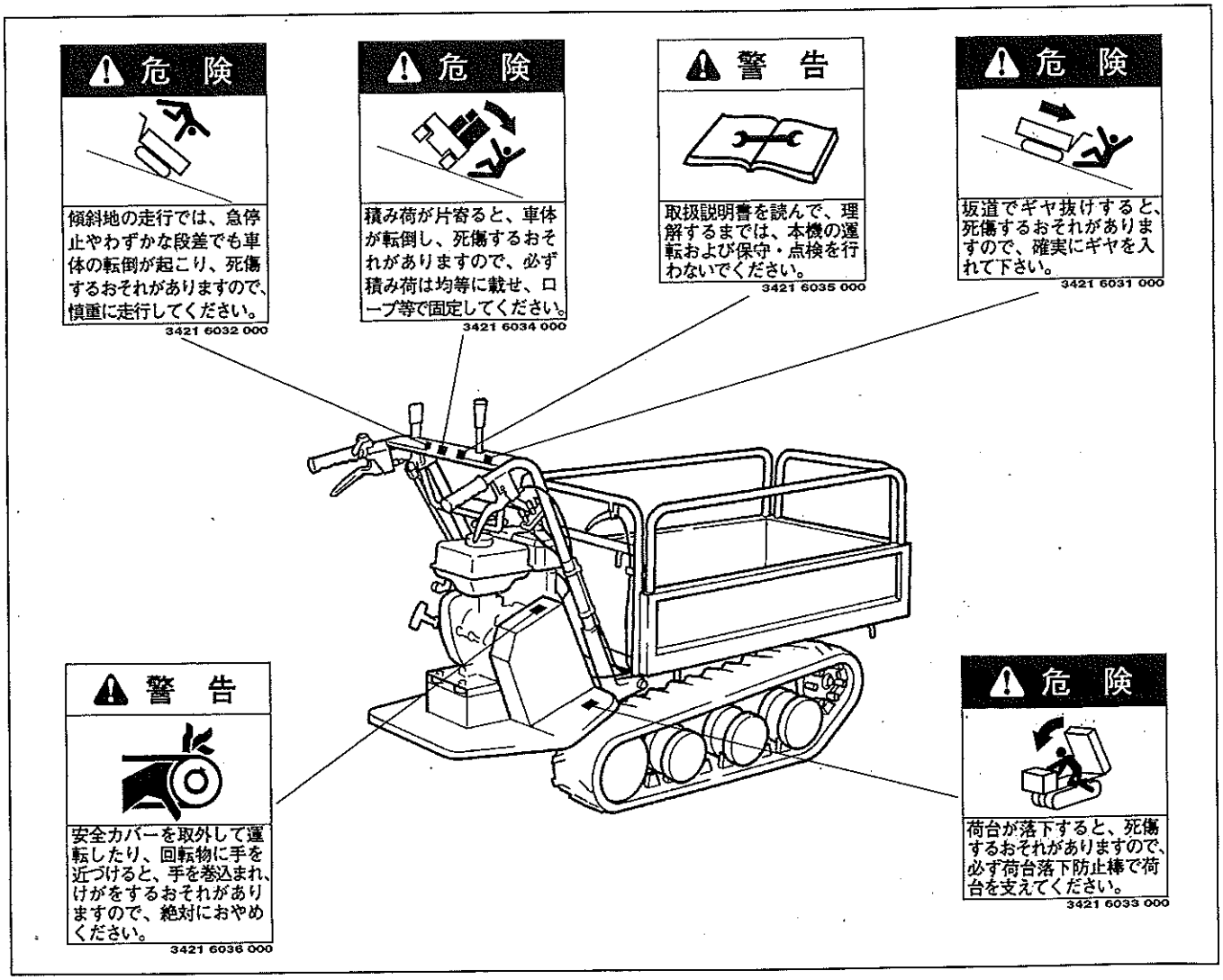
1.3 本書の警告用語について

本書では、危険度の高さ（または事故の大きさ）にしたがって、警告用語を次の4段階に分類しています。以下の警告用語がもつ意味を理解し、本書の内容（指示）に従ってください。

警告用語	意　味
⚠危　険	差し迫った危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う場合に使用されます。
⚠警　告	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う可能性のある場合に使用されます。
⚠注　意	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、中・軽傷を負う場合に使用されます。また、本製品に物的損害が発生する場合にも使用されます。
注　記	とくに注意を促したり、強調したい情報について使用されます。

1.4 本製品に貼付してある警告ラベルについて

本製品には下記の警告ラベルが貼付してあります。はがれたり、見えにくくなった場合には、ラベル下の部品番号にて販売店へ注文し、新たに貼付してください。



2. 保証とアフターサービスについて

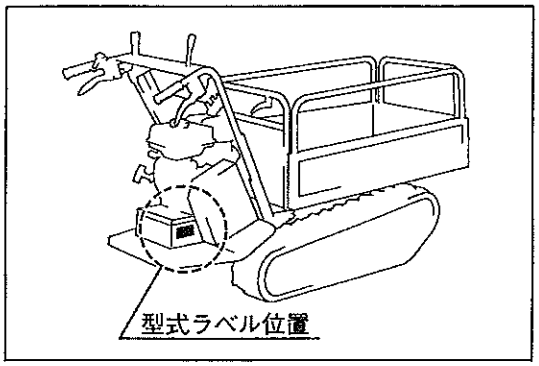
保証について

当社は本製品について、「保証書」の内容に基づいて保証をいたしております。詳しくは本書巻末に添付の「保証書」を参照ください。

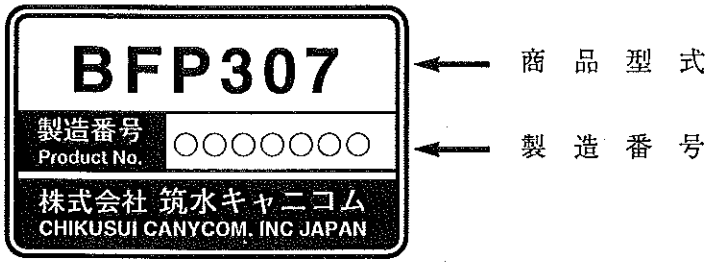
アフターサービスについて

ご使用中の不具合、ご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げいただいた販売店または当社センターにお気軽にご相談ください。
その際、型式ラベルに記載の商品型式、製造番号および搭載エンジンのメーカー名、型式名を併せてご連絡ください。(搭載エンジンのメーカー名および型式名については、本書の第5章「製品仕様」を参照してください。☞9ページ)

＜型式ラベル位置＞



＜型式ラベル＞

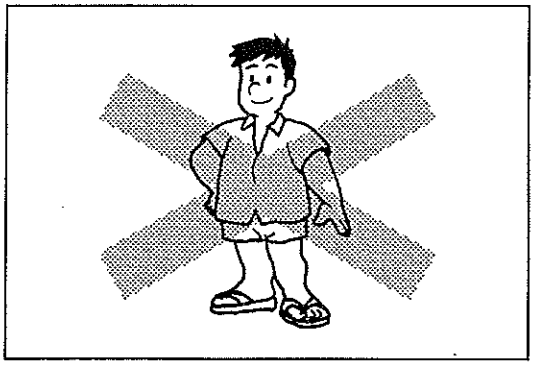


補修用部品の供給年限（期間）について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打切り後7年とします。

3. 安全運転・作業のための心得

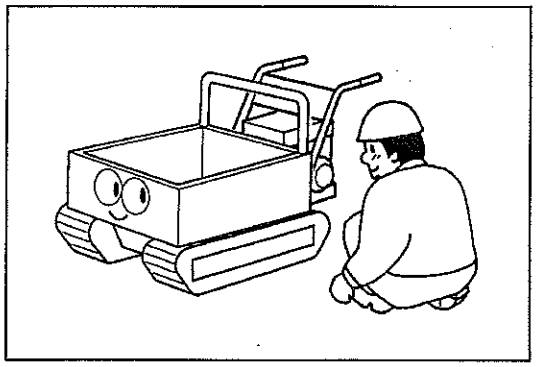
この章では、運転時または作業時に必ず守っていただきたい一般安全事項を記載しています。本章以外で記載している各章の安全事項についても必ず従い、安全運転、安全作業を心掛けてください。



運転前の心得

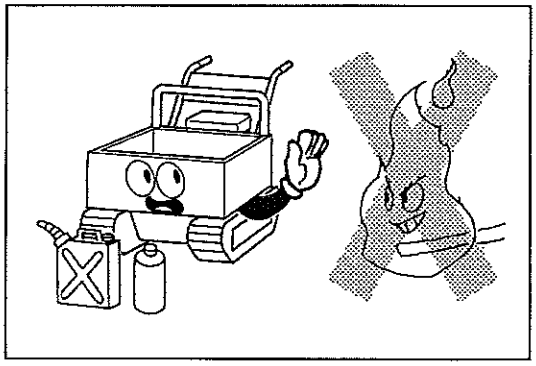
⚠ 正しい服装の励行

運転および作業にふさわしい服装を心掛け、軽装やサンダル履き等で運転や作業をしないでください。



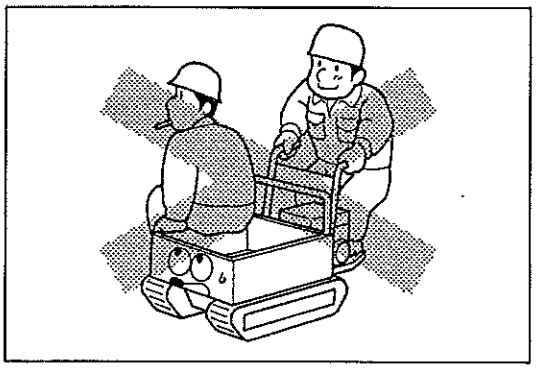
⚠ 始業点検の励行

運転の前に始業点検を必ず励行し、異常箇所は直ちに補修してください。



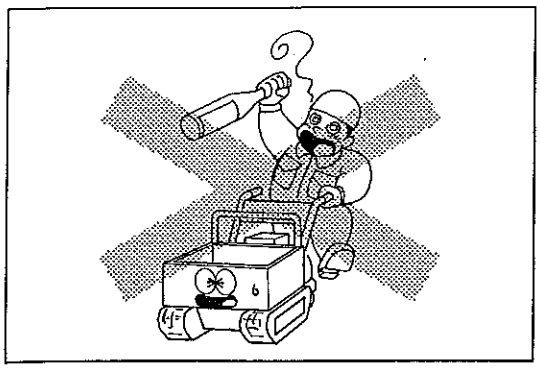
⚠ 火気厳禁

燃料、油脂の取扱い時は、絶対に火気（タバコの火など）を近付けないでください。また、バッテリの充電中やエンジンの整備時にも火気には十分注意して作業をしてください。



⚠ 同乗禁止

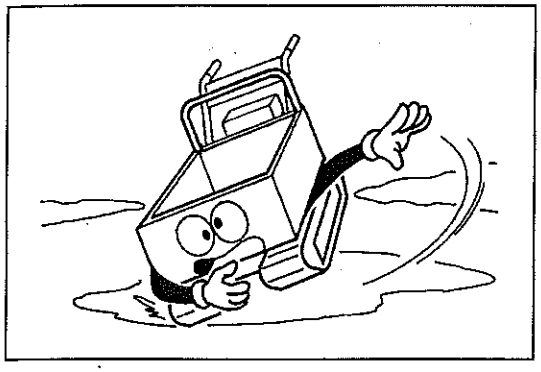
本製品は一人乗りです。同乗者を伴う運転は、重心の移動等が起こり大変危険です。運転者以外は絶対に乗せないでください。



⚠ 無謀運転禁止

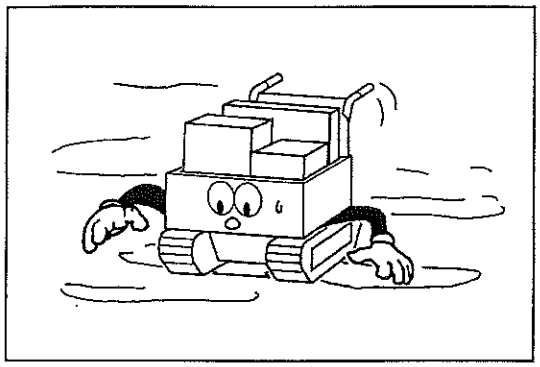
飲酒をして運転したり、体調不良時に無理に運転をすると大変危険です。絶対におやめください。
また、本製品の運転に適さない若年者の運転も絶対におやめください。

走行時の心得



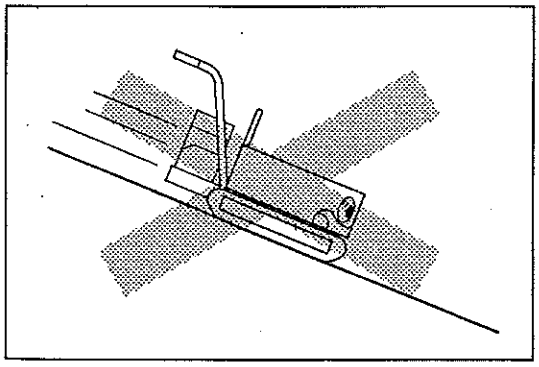
⚠ 急発進、急加速、急旋回、急ブレーキの禁止

急発進、急加速、急旋回および急ブレーキは避け、安全運転を心掛けてください。発進の前には必ず周囲の安全を確認し、軟弱な地盤やぬれた路面での急旋回および急停車はスリップや転倒を招くおそれがあり危険ですので、絶対にしないでください。



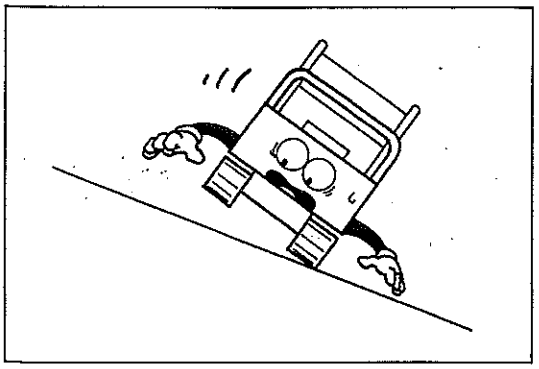
⚠ 安全速度遵守

走行時は、走行路の勾配、路面の状態および積載量に応じた安全速度で走行してください。



⚠ 下り坂ではエンジンブレーキを

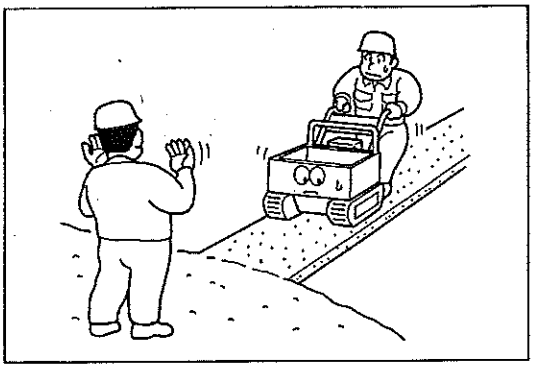
下り坂の前では、一旦停止した後、変速レバーを低速位置に入れ、エンジンブレーキを必ず使用して減速を行ってください。十分な減速を行わないで停止操作を行うと、車体が浮き上がるおそれがあり危険です。



⚠ 斜面での横断禁止

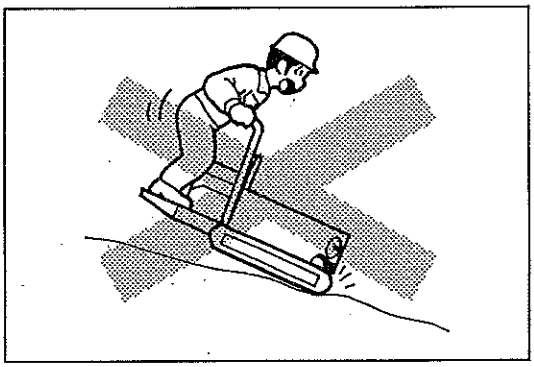
傾斜地ではまっすぐ昇り降りしてください。斜面を横断すると危険です。また急傾斜地はサイドクラッチレバーを操作しないでください。やむを得ない時は、逆旋回に注意して素早く確実に操作してください。

3 安全運転・作業のための心得



⚠ 危険な場所では誘導者の指示に従う

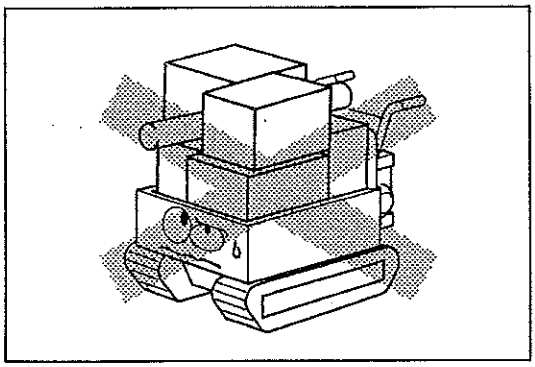
見通しの悪い場所や幅員の狭い道、傾斜や起伏の激しい道では誘導者の指示に従い、安全確認を十分行ってから走行してください。



立ち乗り運転時の心得

⚠ 坂道では歩行運転を

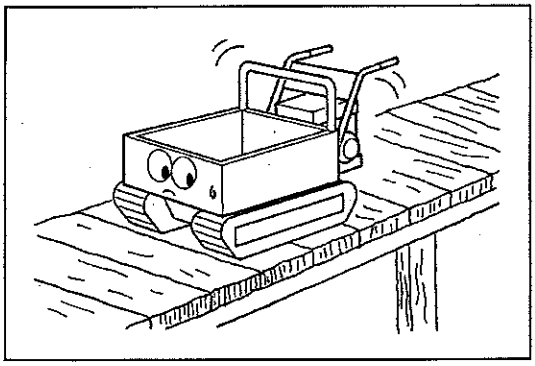
坂道では歩行運転を心掛けてください。坂道で立ち乗り運転をすると、車体の重心の変動が起こり、車体が浮き上がる場合があり危険です。



積載時の心得

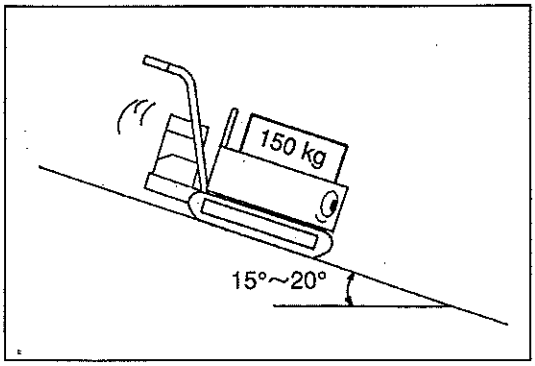
⚠ 過積載禁止

本製品の仕様で規定されている最大作業能力を超える積載はしないでください。



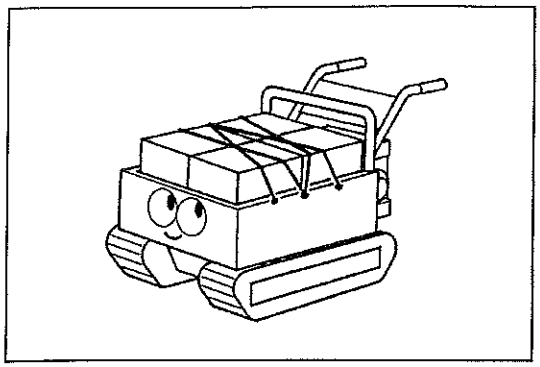
⚠ 制限重量に注意

木橋等を渡る時は、本製品の機械重量と積載量の総重量が、木橋等の制限重量を超えないことを確認し、一定速度で慎重に通過してください。



⚠ 傾斜地での積載量に注意

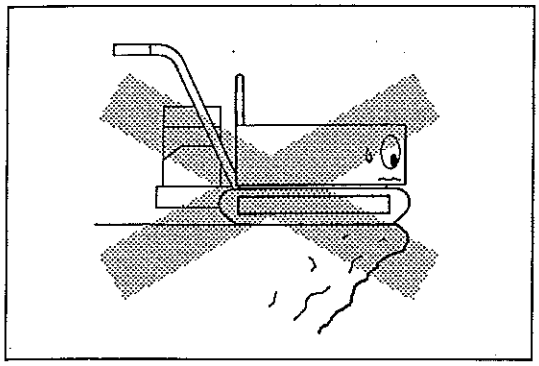
15°～20°の傾斜地では、積載量を150kg以下にして走行してください。20°を超える急傾斜地では、本製品をなるべく使用しないでください。やむを得ず使用する場合は、空車状態で運転してください。



⚠ 積み荷は正しく載せる

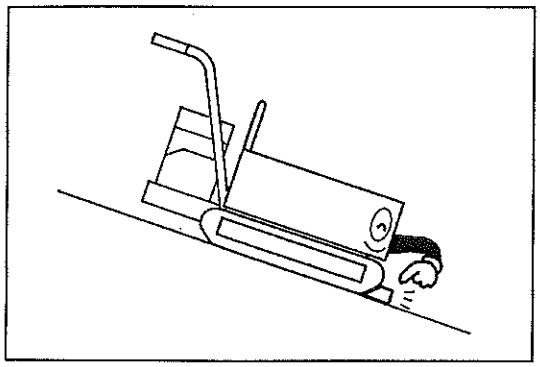
積み荷は偏荷重にならないよう、荷台に均一に載せ、ロープで固定するよう心掛けてください。また、積み荷の高さに注意し、視界を確保するよう注意してください。

駐車時の心得



⚠ 危険な場所での駐停車禁止

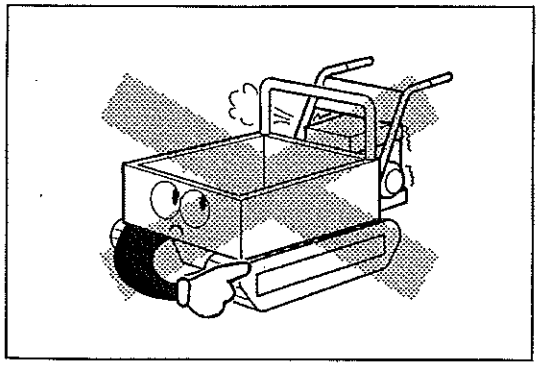
駐停車の際は足場のよい平坦地に車体を止め、危険な場所での駐停車はしないでください。



⚠ 駐車時の安全確認および坂道での輪止め励行

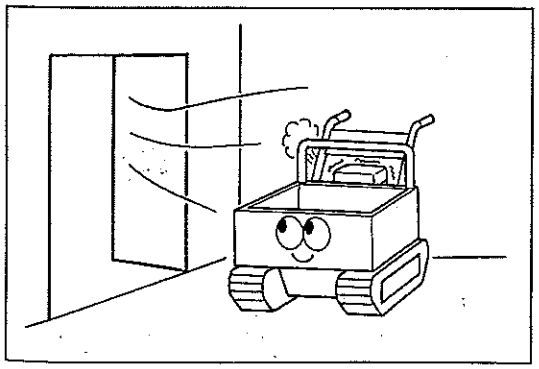
駐車時は、走行クラッチを「停車」の位置（ブレーキ入）にし、エンジン停止を励行してください。また、坂道での駐車は避け、やむなく坂道で駐車するときは、必ず輪止めをしてください。

整備時の心得



⚠ エンジン回転中の整備禁止

エンジン回転中は整備を行わないでください。
必ずエンジンを停止してから整備をしてください。

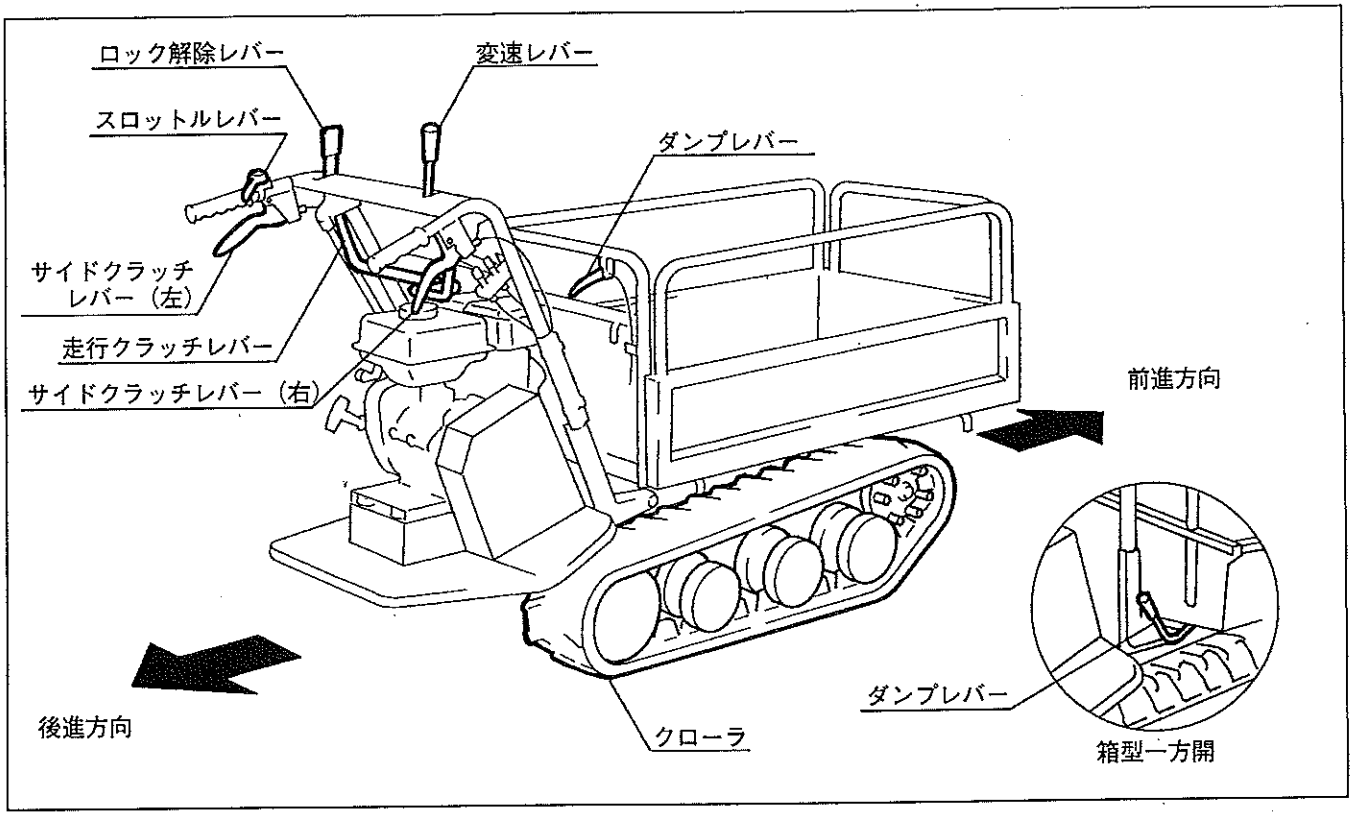


⚠ 換気に注意

室内でエンジンを運転させる時は、排気ガスによる中毒防止のため、換気をよくしてから作業を行ってください。

4. 各部の名称とはたらき

各部の名称



各部のはたらき

- スロットルレバー .....エンジン回転数の増減を行います。
- サイドクラッチレバー .....方向を変える時に使用します。
  車体はレバーを握った側へ曲がります。
  また、左右同時にレバーを握るとその場で急停止します。
- 走行クラッチレバー .....エンジンからミッションへの動力を断続させます。
  レバーを上に引き上げると「走行」の状態、下に押し下げると「停車」の状態になります。
  また、このレバーはブレーキ連動式となっており、レバーを下に押し下げると「ブレーキ入」の状態になります。
  歩行操作においては、後退時のはさまれ防止を行う“緊急停止装置”となります。
- 変速レバー .....走行速度の選択に使用します。
  変速は走行クラッチレバーを「停車（下側）」にして、車体が停止した状態で行ってください。
- ダンプレバー（手動） .....荷台をダンプさせる時に使用します。
  ダンプレバーを握ると、荷台のロック装置が解除されます。
  (サイドフレーム・箱型三方開仕様)
  ダンプレバーを前方へ倒すと、荷台のロック装置が解除されます。(箱型一方開仕様)
- ロック解除レバー .....ハンドルの角度（高さ）を変える時に使用します。
  レバーを前方に押すと、ハンドルのロック装置が解除されます。

5. 製品仕様

5.1 本製品の仕様

注　記

本製品の仕様を理解した上で、正しく本製品を使用してください。

名称・形式				BFP307			BFP400		
				箱型一方開型	箱型三方開型	サイドフレーム型	箱型一方開型	箱型三方開型	サイドフレーム型
機械質量			kg	145	165	155	145	165	155
最大作業能力			kN (kg)	2.45 (250)			2.94 (300)		
機械寸法	全長		mm	1680 [1750]	1680 [1750]	1580[1650](1740)	1680 [1750]	1680 [1750]	1580[1650](1740)
	全幅		mm	800	830	650 (975)	800	830	650 (975)
	全高		mm	1160 [1070]			1160 [1070]		
	クローラ接地長さ		mm	710			710		
	クローラ中心距離		mm	490			490		
	最低地上高		mm	105			105		
	床面高さ		mm	380	395	390	380	395	390
荷箱寸法	荷箱内側寸法	長さ	mm	1050	1050	950 (1110)	1050	1050	950 (1110)
		幅	mm	740	745	520 (900)	740	745	520 (900)
		高さ	mm	185	185	420	185	185	420
エンジン	名称			三菱 GM91	クボタ GS120		三菱 GM132 [131]	クボタ GH130	
	形式			空冷4サイクルOHVガソリン	空冷4サイクルSVガソリン		空冷4サイクルOHVガソリン	空冷4サイクルOHVガソリン	
	シリンダ（内径×行程）		mm	52×42	60×43		62×42	61×43	
	総排気量		cm^3 (cc)	89 (89)	121 (121)		126 (126)	125 (125)	
	最大出力		kW/min^{-1} (PS/rpm)	2.0/2000 (2.7/2000)	2.2/2100 (3.0/2100)		2.9/2000 (4.0/2000)	3.1/2000 (4.2/2000)	
	連続定格出力		kW/min^{-1} (PS/rpm)	1.6/1800 (2.2/1800)	1.6/1800 (2.1/1800)		2.1/1800 (2.8/1800)	2.1/1800 (2.9/1800)	
	最大トルク		N·m/min^{-1} (kg·m/rpm)	10.4/1400 (1.06/1400)	10.2/1600 (1.04/1600)		15.3/1400 (1.56/1400)	15.3/1400 (1.56/1400)	
	始動方式			リコイル、セル	リコイル		リコイル	リコイル、セル	
	使用燃料			ガソリン	ガソリン		ガソリン	ガソリン	
	燃料消費率		g/kW·h (g/PS·h)	320 (235)	420 (310)		292 (215) [320 (235)]	312 (230)	
	燃料タンク容量		ℓ	3.0	3.0		2.2 [3.0]	3.0	
	潤滑油容量		ℓ	0.6	0.55		0.6	0.55	
	バッテリ形式			BX−4A−3B	—		—[BX−4A−3B]	BX−4A−3B	
	バッテリ容量		V/AH	12/4	—		—[12/4]	12/4	
	点火方式			電子点火			電子点火		
	点火プラグ品番			BP5ES	BP4HS-10 W14FPUL-10		BP6HS [BP5ES]	BP6HS	

名称・形式					BFP307			BFP400		
					箱型一方開型	箱型三方開型	サイドフレーム型	箱型一方開型	箱型三方開型	サイドフレーム型
走行性能	走行速度	前進	1速	km/h	1.7			1.7		
			2速	km/h	3.9			3.9		
		後進	1速	km/h	1.8			1.8		
	最小回転半径			m	1.1	1.11	1.03	1.1	1.11	1.03
	登坂能力			度	25＜空車＞			25＜空車＞		
トランスミッション油量				ℓ	1.2			1.2		
動力伝達装置	クラッチ形式				ベルトテンション方式			ベルトテンション方式		
	主変速形式				ギヤスライド			ギヤスライド		
	操向装置形式				ドグクラッチ・爪ロック式			ドグクラッチ・爪ロック式		
	ブレーキ形式				内拡式ブレーキ			内拡式ブレーキ		
	クローラ				150×32×70			150×32×70		
ダンプ装置	ダンプ方式				手動ダンプ方式			手動ダンプ方式		
	荷台形式				箱型一方開型	箱型三方開型	サイドフレーム型	箱型一方開型	箱型三方開型	サイドフレーム型

※（ ）内寸法はサイドフレーム延長時を示します。　※[ ]内寸法はハンドル下降時（歩行操作時）を示します。
※機械重量はリコイル方式の場合を示します。セル方式は5kg増となります。
※この仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

5.2 工具袋明細

No.	部品名	個数	備考
1	取扱説明書（本書）	1	
2	エンジン取扱説明書	1	
3	スパナ（24）	1	クローラ張りボルト調整用
4	エンジン工具	1式	エンジン整備用

6. 運転と操作

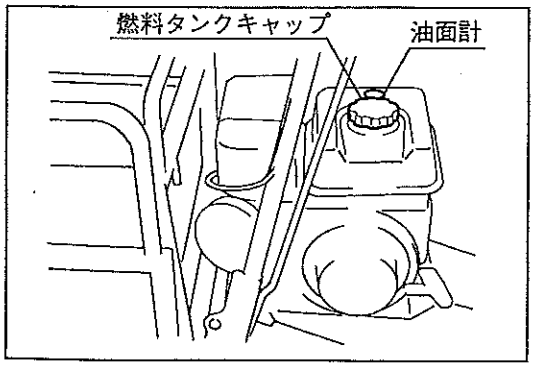
- 本章を読む前に第３章「安全運転・作業のための心得」（☞４ページ～７ページ）を必ずお読み下さい。
- 運転および操作については、必ず本章の指示に従い、自己判断による見切り操作は絶対にしないでください。

6.1 始動前の準備

6.1.1 燃料の点検と補給

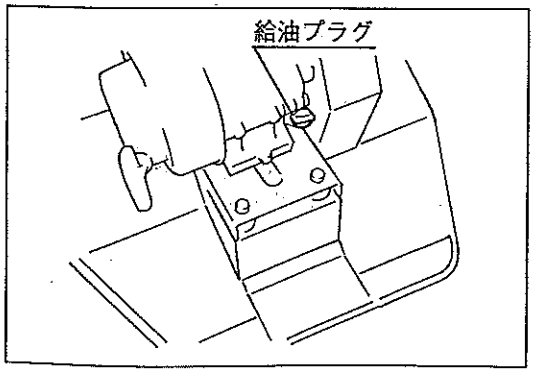
⚠危 険

- **給油の際は火気（タバコの火など）を絶対に燃料およびエンジンに近付けないでください。引火の原因となります。**
- **給油は必ずエンジンを停止した状態で行ってください。**
- **エンジン停止直後はエンジンが高温になっているため、給油の際に燃料注入口から燃料がこぼれないよう十分注意してください。こぼれた際には速やかにふき取ってください。**



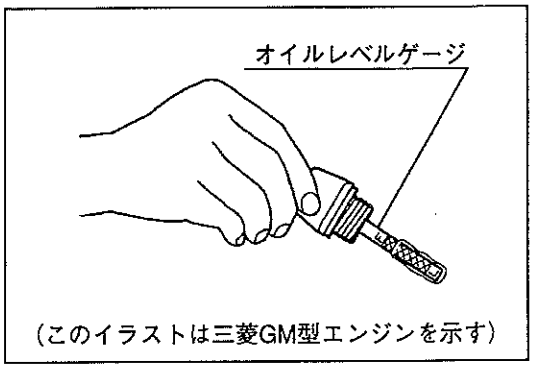
1. 油面計を目視点検し、燃料が不足している場合は、燃料タンクキャップを開け、燃料を補給します。

   使用燃料：ガソリン
   燃料タンク容量：2.2ℓ



6.1.2 エンジンオイル量の点検と補給

1. エンジンオイルの給油プラグを取外します。



（このイラストは三菱GM型エンジンを示す）

2. エンジンオイル量を目視点検し、規定量にない場合はエンジンオイルを補給します。

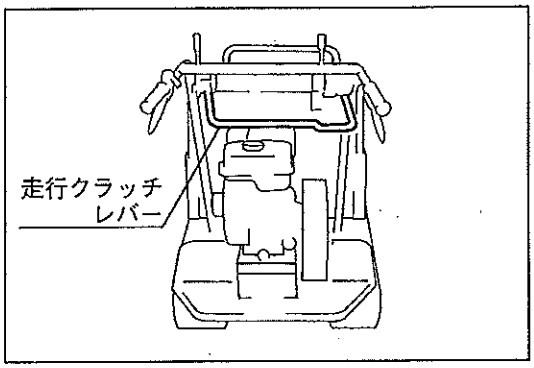
使用オイル：☞25ページ

エンジンオイル量：
クボタGS型およびGH型エンジンの場合：
給油口の口もといっぱいまで
三菱GM型エンジンの場合：
オイルレベルゲージの「F」と「L」の間

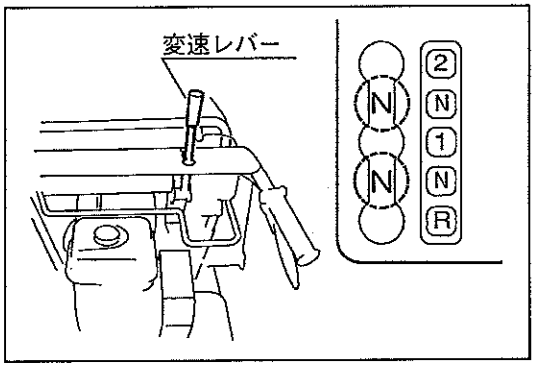
6.2 始動のしかた

⚠危 険

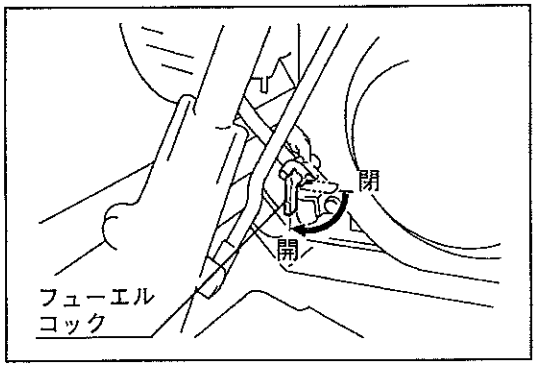
エンジンの始動は、必ず換気のよい場所で行ってください。



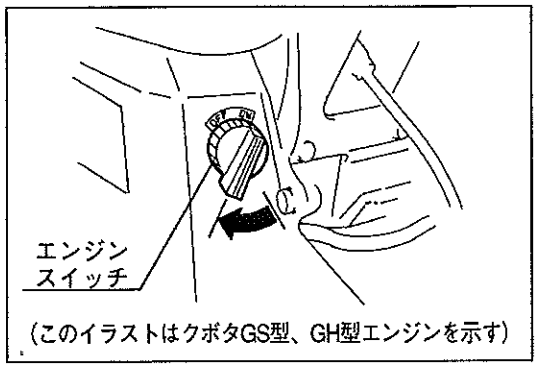
1. 走行クラッチレバーを「停車（下側）」の位置にします。



2. 変速レバーを「中立（ニュートラル）」の位置にします。



3. エンジンのフューエルコックを「開」の位置にします。

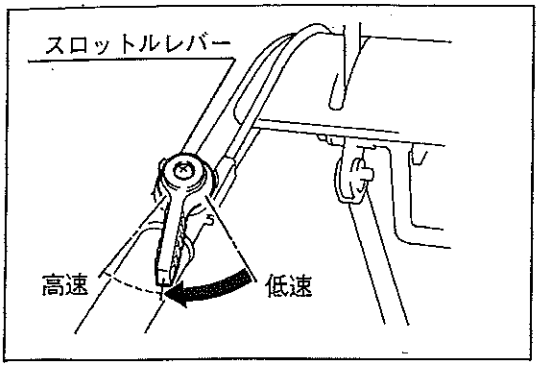


（このイラストはクボタGS型、GH型エンジンを示す）

4. エンジンスイッチを「ON」の位置にします。

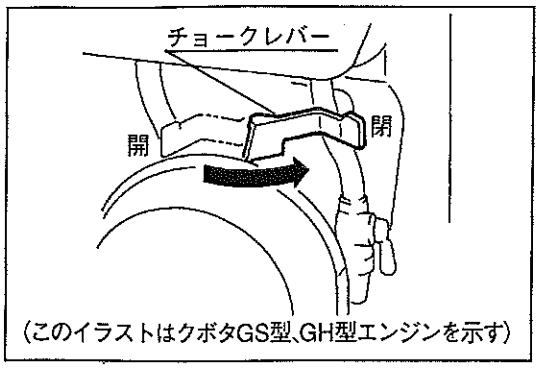
注　記

三菱GM型エンジンのエンジンスイッチについては、「エンジン取扱説明書」を参照してください。



5. 本体のスロットルレバーを「低速」と「高速」の中間位置にします。

参考：
本体のスロットルレバーは、スロットルワイヤを介してエンジン側のスロットルレバーに連結されています。

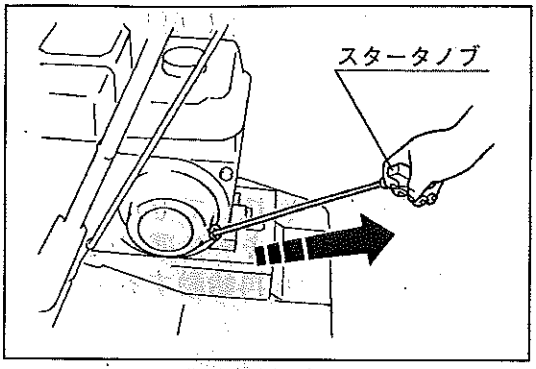


6. チョークレバーを「全閉 (N)」の位置にします。

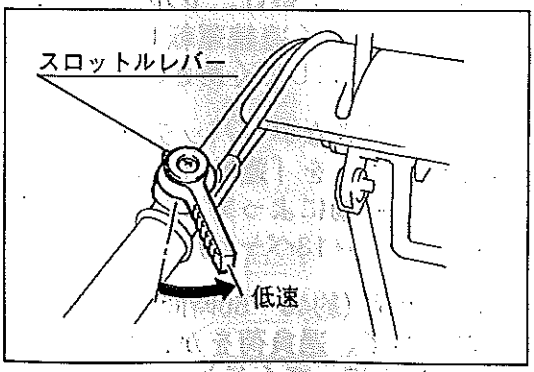
注　記

- エンジンが暖まっている時は、チョークレバーを閉じる必要はありません。
- 三菱GM型エンジンのチョークレバーについては、「エンジン取扱説明書」を参照してください。

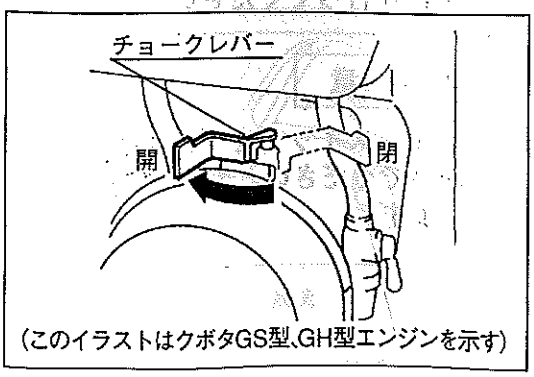
(リコイル式エンジンの場合)



7. スタータノブを握り、圧縮位置まで軽く引き、この位置から勢いよく引っ張ります。



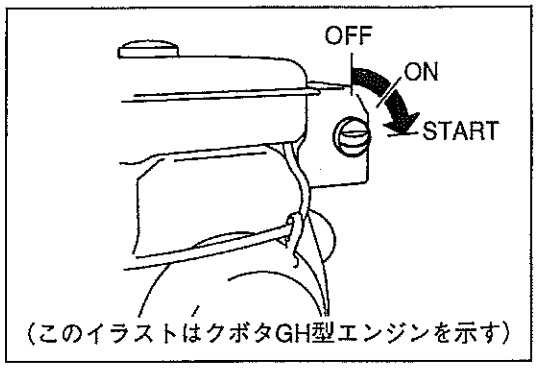
8. エンジンが始動したら、スロットルレバーを「低速」側に動かします。



9. チョークレバーを「全開 (H)」の位置に戻し、3～5分間暖機運転をします。

注　記

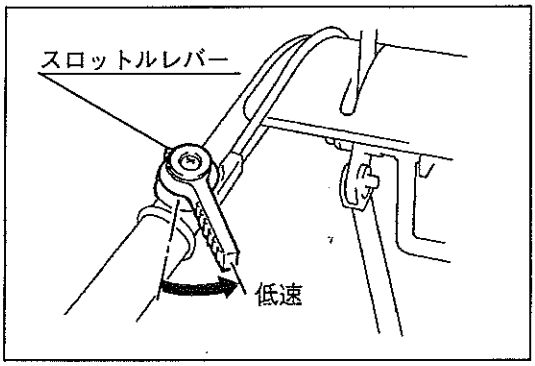
購入後、最初の一週間（約40～50時間）は、慣らし運転期間として、過負荷をかけないように控えめな運転を行ってください。



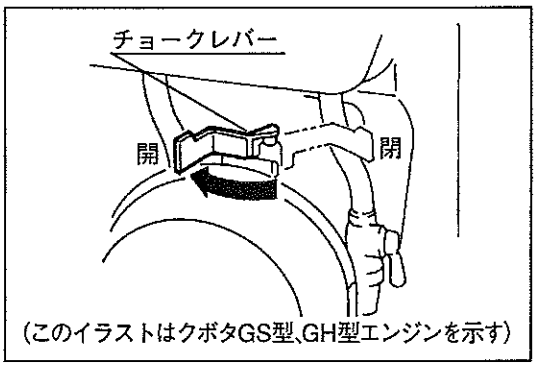
（このイラストはクボタGH型エンジンを示す）

（セルフスタータ式エンジンの場合）

7. エンジンキーを差し込み、「START」位置まで回します。



8. エンジンが作動したら、スロットルレバーを「低速」側に動かします。



（このイラストはクボタGS型、GH型エンジンを示す）

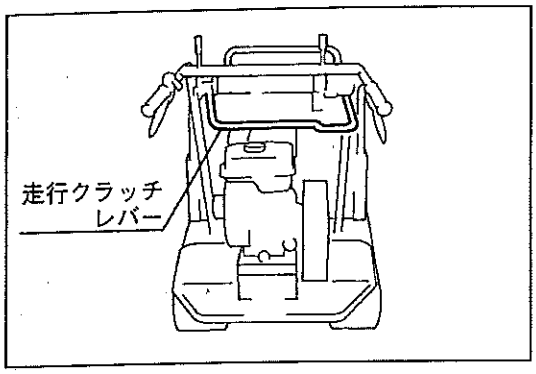
9. チョークレバーを「全開（）」の位置に戻し、3～5分間暖機運転をします。

注　記

- 始動しない場合、5秒以上連続してセルモータを回さないでください。キーを運転位置に戻し、10秒位休んでから再始動するようにしてください。
- 頻繁なセル始動はなるべく避け、セルモータを起動したら、しばらく連続運転して、バッテリを充電するようにしてください。
- セルスタートで始動できない（バッテリ上がりなど）場合は、キーを「運転（ＯＮ）」位置にし、リコイル始動によってエンジンを始動してください。（☞13ページ）
- 購入後、最初の一週間（約40～50時間）は、慣らし運転期間として、過負荷をかけないように控えめな運転を行ってください。

⚠注　意

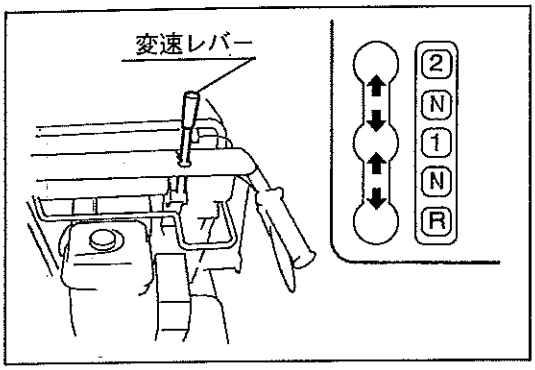
エンジン運転中は、キースイッチを「START」位置に絶対に回さないでください。セルモータの破損の原因になります。



6.3 運転のしかた

1. 車両の前後、左右の安全を確認します。

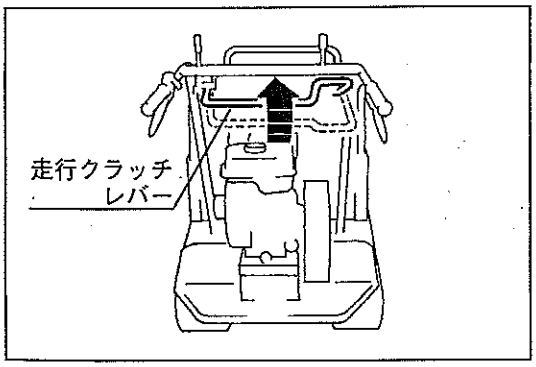
2. 走行クラッチレバーが「停車（下側）」の位置にあることを確認します。



3. 変速レバーを前進または後進の任意の変速位置に確実に入れます。（各変速位置での走行スピードについては、第５章の「製品仕様」を参照してください。☞10ページ）

⚠危　険

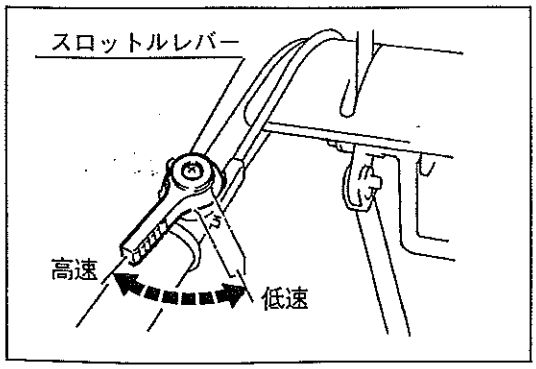
変速（ギヤチェンジ）が不十分な場合、ギヤ抜けのおそれがあり大変危険です。ギヤが入りにくいときは、無理に入れずに、走行クラッチレバーを「走」へ少し動かし、確実にギヤチェンジを行ってください。



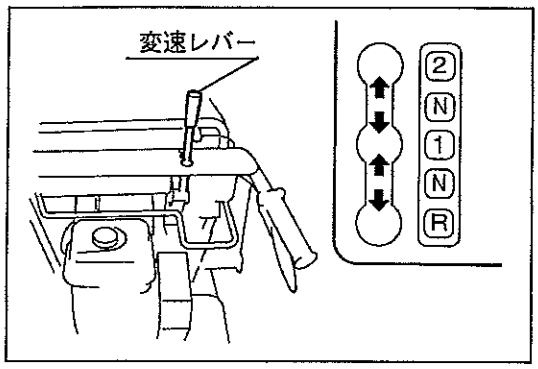
4. 走行クラッチレバーを「走行（上側）」の位置に徐々に引き上げ、発進させます。

注　記

走行クラッチレバーを急に引き上げると、エンストする場合があります。



5. スロットルレバーを「低速」から「高速」側へ徐々に動かし、速度を調整します。



(変速する場合)

6. 車体を停止させた後、上記１～３の操作を行います。(車体の停止のしかたについては、6.4『停止のしかた』を参照してください。☞17ページ)

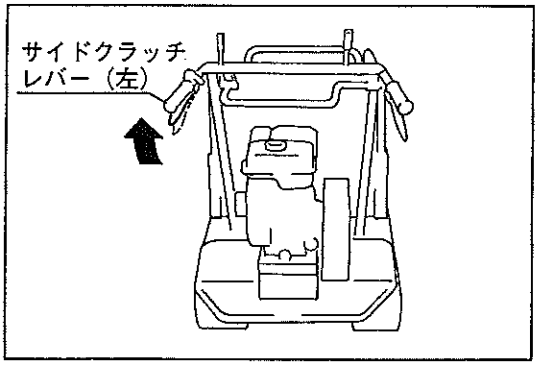
⚠注　意

走行中の変速はできません。必ず車体を停止させてから変速操作を行ってください。

(旋回する場合)

⚠注　意

左右両側のサイドクラッチレバーを同時に操作すると急停車しますので、緊急の場合を除き、左右のサイドクラッチレバーを同時に操作しないでください。

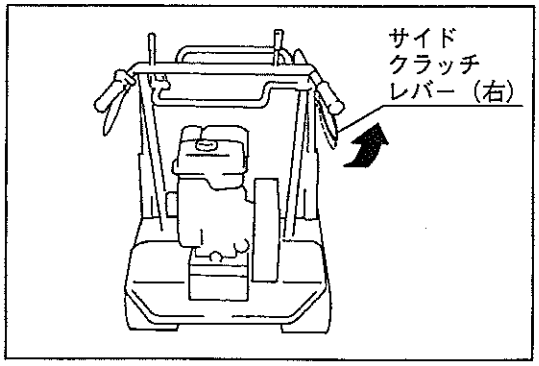


左に旋回する場合：

6. 左側のサイドクラッチレバーを握ります。

⚠注　意

急旋回は緊急の場合を除き、避けてください。

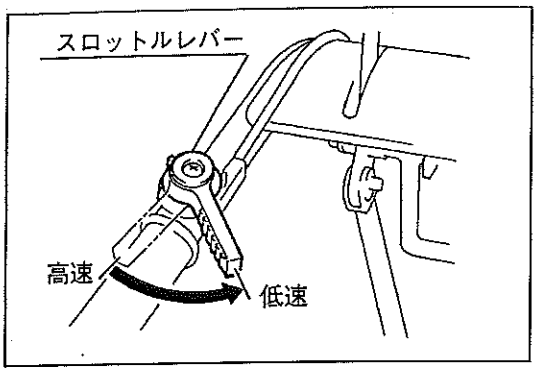


右に旋回する場合：

6. 右側のサイドクラッチレバーを握ります。

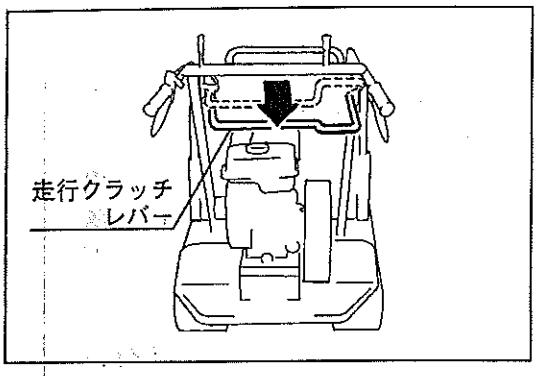
⚠注　意

急旋回は緊急の場合を除き、避けてください。



6.4 停止のしかた

1. スロットルレバーを「低（低速)」の位置にします。

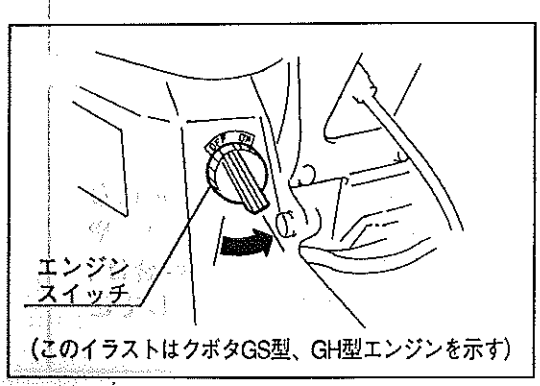


2. 走行クラッチレバーを「停車（下側)」の位置にします。

> **⚠注　意**
>
> **緊急の場合は、左右のサイドクラッチレバーを同時に握ってください。車体は急停車します。なお、傾斜地では車体が浮き上がることがありますので、十分注意してください。**

(リコイル式エンジンの場合)

3. エンジンスイッチを「OFF」にします。

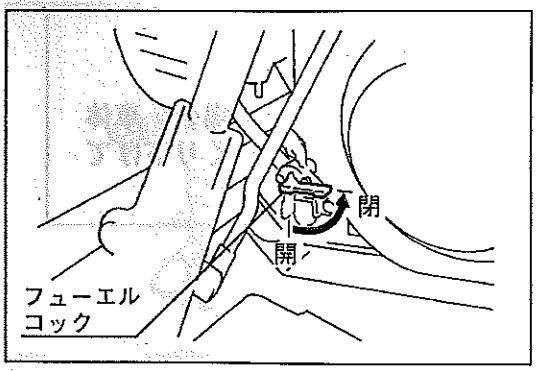


(このイラストはクボタGS型、GH型エンジンを示す)

注　記

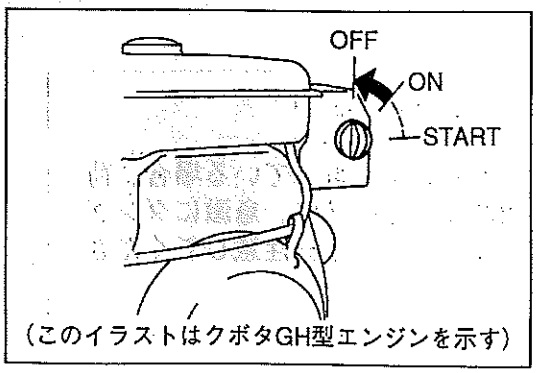
三菱GM型エンジンのエンジンスイッチについては「エンジン取扱説明書」を参照してください。

4. フューエルコックを閉じます。



(セルフスタータ式エンジンの場合)

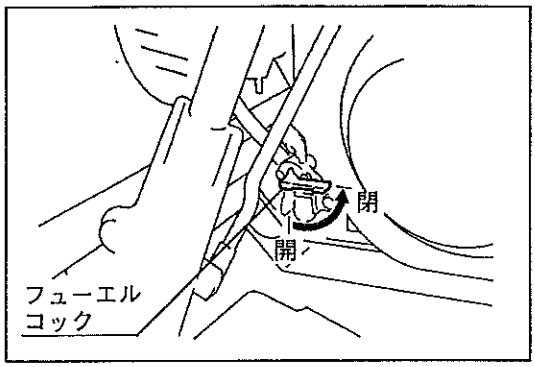
3. エンジンキーを「OFF」の位置にし、キーを抜き取ります。



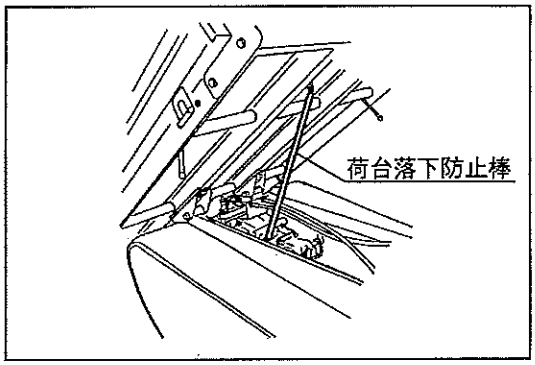
(このイラストはクボタGH型エンジンを示す)

注　記

キースイッチを「入」のままにしておくと、バッテリから各回路に電流が流れ続け、バッテリの上がりの原因になります。



4. フューエルコックを閉じます。



6.5 ダンプ操作

⚠危 険

- 荷台を上昇して荷台下等の点検を行なう場合は、危険防止のため、備え付けの荷台落下防止棒を使って荷台を確実に支えてください。
- ダンプ操作時は周囲の安全確認を必ず行ってください。

⚠警 告

急傾斜地でのダンプ操作は、車体が不安定になり、非常に危険ですので、お避けください。やむを得ず坂道でのダンプ操作を行なう場合は、走行部にりん木等を敷き、車体を水平にしてご使用ください。

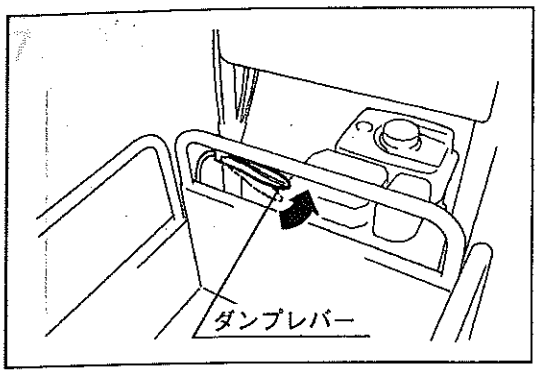
⚠注 意

荷を積載したまま荷台を下降させる場合、車体に衝撃を与えないよう、荷台をゆっくり下げてください。

6.5.1 上昇

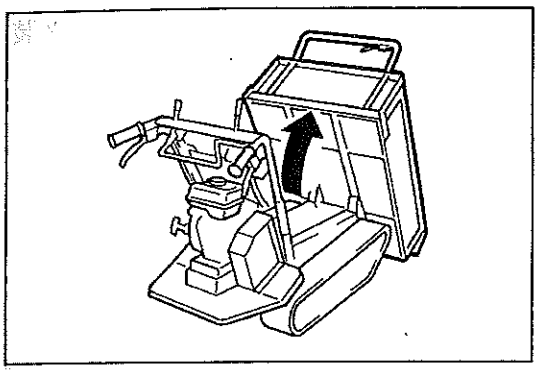
⚠注 意

傾斜地や積み荷が前方に片寄っている場合、荷台のロックを解除すると同時に、急激にダンプすることがありますので、十分注意してください。

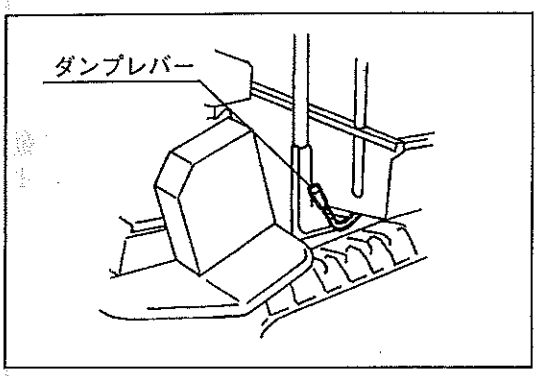


（サイドフレーム・箱型三方開仕様の場合）

1. ダンプレバーを握り、荷台のロックを解除します。

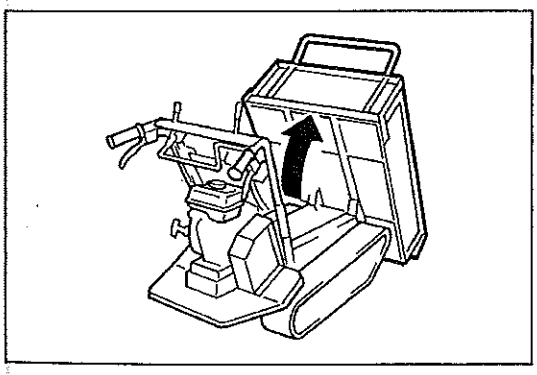


2. 荷台を前方へ持ち上げます。

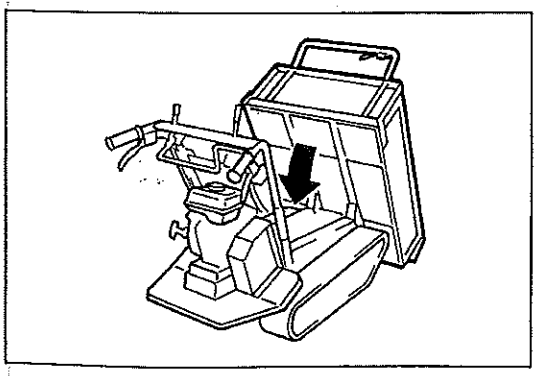


（箱型一方開仕様の場合）

1. ダンプレバーを前方へ倒し、荷台のロックを解除します。



2. 荷台を前方へ持ち上げます。



6.5.2 下降

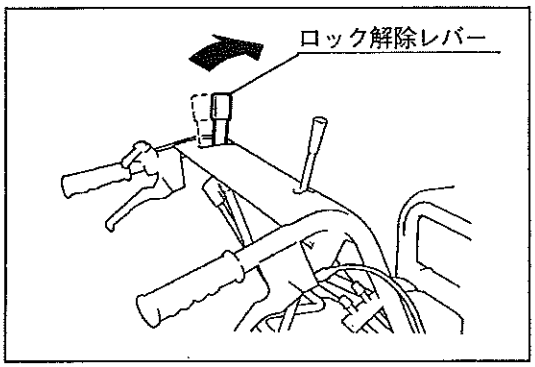
1. 荷台を手動で後方へ倒し、荷台をロックさせます。

2. ダンプレバーを操作せずに荷台を持ち上げ、荷台が確実にロックされているか確認します。

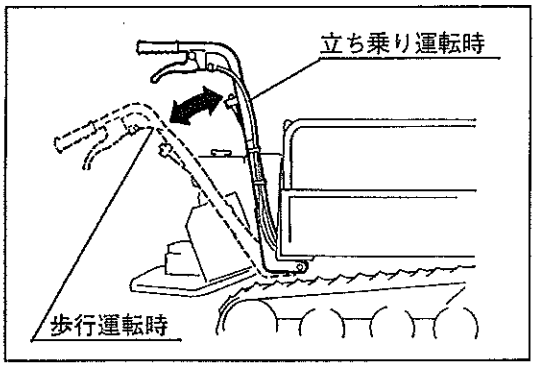
6.6 ハンドル角度（高さ）の切換え操作

⚠注 意

ハンドル角度（高さ）の切換え操作は必ず停車状態で行ってください。走行中に切換え操作を行うと、運転姿勢が崩れ、危険です。



1. ロック解除レバーを前方に倒し、ハンドルのロック装置を解除します。



2. 立ち乗り運転時：ハンドルを上方に引き上げます。
歩行運転時：ハンドルを下方に下げます。

3. ロック解除レバーを操作せずに、ハンドルを上下に動かし、ハンドルが確実にロックされているか確認します。

7. 保守（お手入れ）

7.1 定期点検表

点検や整備を怠ると事故の原因となることがあります。製品の正常な機能を維持し、いつも安全な状態で運転または作業をするために、下表を参考に点検を行ってください。
年次点検は１年に１回、月例点検は１ヶ月に１回、始業点検は作業を開始する前に毎日、点検を行なうようにしてください。

注　記

下表の点検内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない点検内容については、販売店（当社センター）へ依頼してください。

項目			点検内容		点検時期 始業	月例	年次	備考
原動機	本体	始動性	• エンジンのかかり具合および異音の有無を調べる。	始動が容易で、異音がないこと。	○	○	○	
		回転の状態	• アイドリング時および無負荷最高回転時の回転数を調べる。また、回転が円滑に続くか調べる。	正規の回転数であること。回転が円滑に続くこと。		○	○	販売店へ点検を依頼してください。
			• エンジンを加速した時、スロットルレバーの引っ掛かり、エンジン停止およびノッキングの有無を調べる。	引っ掛かり、エンジン停止またはノッキングがないこと。	○	○	○	
		排気の状態	• エンジンを十分に暖機した状態で、アイドリング時から高速回転時まで排気色および排気音の異常の有無を調べる。	排気色および排気音が正常であること。	○	○	○	
			• 排気管、マフラ等からのガス漏れの有無を調べる。	ガス漏れのないこと。		○	○	
		エアクリーナ	• ケースの亀裂、変形およびふた部、接続管の緩みの有無を調べる。	ケースの亀裂、変形またはふた、接続管に緩みがないこと。		○	○	
			• エレメントの汚れおよび損傷の有無を調べる。	著しい汚れまたは損傷がないこと。		○	○	清掃／交換：☞29ページ
		締付け	• シリンダヘッドおよびマニホールドの締付け部のボルトおよびナットの緩みの有無を調べる。 ＊これらの部分からガス漏れや水漏れが認められない場合は、この検査を省略してもよい。	緩みがないこと。			○	
		弁隙間	• 弁隙間を調べる。 ＊弁隙間の異常による異音がなく、エンジンが円滑に回転している場合は、この検査を省略してもよい。	正規の弁隙間であること。			○	販売店へ点検を依頼してください。

7 保守（お手入れ）

項目			点検内容		点検時期 始業	月例	年次	備考
原動機	本体	圧縮圧力	• 圧縮圧力を調べる。 ＊アイドリング時および加速時の回転状態ならびに排気の状態に異常がなければこの検査を省略してもよい。	正規の圧縮圧力であること。			○	販売店へ点検を依頼してください。
		エンジンマウント	• エンジンベースの亀裂および変形の有無を調べる。	亀裂または変形がないこと。	○	○	○	
			• 取付けボルトおよびナットの緩みおよび脱落の有無を調べる。	緩みまたは脱落がないこと。	○	○	○	
			• 防振ゴムの損傷および劣化の有無を調べる。	損傷または劣化がないこと。	○	○	○	
	潤滑装置		• 油量および油の汚れを調べる。	油量が適正で著しい汚れがないこと。	○	○	○	点検／交換：☞26ページ
			• ヘッドカバー、オイルパン、パイプ等からの油漏れの有無を調べる。	著しい油漏れがないこと。	○	○	○	
	燃料装置		• 燃料タンク、ホース、パイプ等からの燃料漏れの有無を調べる。	燃料漏れのないこと。	○	○	○	
			• 燃料ホースの損傷および劣化の有無を調べる。	損傷または劣化がないこと。	○	○	○	
			• フューエルフィルタの汚れおよび詰まりの有無を調べる。	著しい汚れまたは詰まりがないこと。		○	○	清掃：☞30ページ
	電気装置	点火プラグ	• 電極の消耗状態、カーボンの堆積の有無を調べる。	消耗がなく、カーボンの堆積がないこと。			○	点検／清掃：☞29ページ
		バッテリ（セルフスタータ式のみ）	• 電解液の量が規定の範囲にあるか調べる。	規定範囲にあること。		○	○	点検／補給：☞28ページ
			• 端子部の緩みおよび腐食の有無を調べる。	緩みまたは著しい腐食がないこと。		○	○	
		配線	• 接続部の緩みの有無を調べる。	緩みがないこと。		○	○	
			• 配線の損傷の有無を調べる。	損傷がないこと。		○	○	
動力伝達装置	走行クラッチ		• アイドリング状態でクラッチを切り、異音の有無を調べると共にトランスミッションを変速しクラッチの切れ具合を調べる。	異音がなくクラッチが完全に切れること。	○	○	○	調整：☞31ページ
			• クラッチを徐々に接続して発進の具合を調べる。	滑りがなく接続が円滑であること。	○	○	○	調整：☞31ページ
	Vベルト		• 外観の損傷および汚れの有無を調べる。	損傷がなく油脂類の付着がないこと。		○	○	点検：☞31ページ
			• Vベルトの張りについて調べる。	適正な張りであること。		○	○	点検／調整：☞31ページ
	トランスミッション		• 変速レバーを前進および後進状態にして駆動し、作動状態ならびにギヤ抜け、異音および異常発熱の有無を調べる。	正常に作動し、ギヤ抜け、異音または異常発熱がないこと。	○	○	○	
			• ケース内の油量を調べる。	油量が適正であること。		○	○	点検／交換：☞27ページ
			• 油の汚れを調べる。	著しい汚れがないこと。		○	○	点検／交換：☞27ページ
			• ケース周辺からの油漏れの有無を調べる。	油漏れのないこと。		○	○	

項目		点検内容		点検時期 始業	月例	年次	備考
動力伝達装置	サイドクラッチ	• 走行してサイドクラッチレバーを操作した時、異音がなく確実に作動するか調べる。	異音がなく確実に作動すること。	○	○	○	
		• レバーを操作し、遊びおよび引きしろの適否を調べる。	遊びおよび引きしろが適正であること。	○	○	○	調整：☞32ページ
		• レバーを操作し、ワイヤの損傷および接続部のガタならびに各ピンの錆付きの有無を調べる。	ガタまたは錆付きがないこと。		○	○	
走行装置	転輪 遊動輪 スプロケット	• 亀裂、変形および摩耗の有無を調べる。	亀裂、変形または著しい摩耗がないこと。	○	○	○	
		• 走行して軸部の異音および異常発熱の有無を調べる。	異音または異常発熱がないこと。	○	○	○	
		• 取付けボルトおよびナットの緩みおよび脱落の有無を調べる。	緩みまたは脱落がないこと。	○	○	○	
		• 軸部周辺からの油漏れの有無を調べる。	油漏れがないこと。	○	○	○	
	クローラ	• スチールコードの切断および損傷の有無を調べる。	切断または著しい損傷がないこと。	○	○	○	
		• ゴムの欠け、劣化および摩耗の有無を調べる。	著しい欠け、劣化または摩耗がないこと。	○	○	○	
		• クローラの張り具合を調べる。	緩みまたは張り過ぎがないこと。	○	○	○	調整：☞33ページ
	クローラ張りボルト	• 張りボルトの変形、腐食の有無を調べる。	変形、腐食がないこと。		○	○	
制動装置	ブレーキ	• 機械を走行させてブレーキの効き具合を調べる。	効き具合が適正であること。	○	○	○	調整：☞32ページ
		• 機械を無負荷状態で1/6勾配の床面で停止の状態に保持できるかを調べる。	効き具合が適正であること。	○	○	○	調整：☞32ページ
		• レバーを反復させて引き力および戻り具合を調べる。	引き力または戻り具合が正常であること。	○	○	○	
	ロッド、リンク及びワイヤ類	• ロッド、リンクおよびワイヤ類の損傷ならびに取付け部の緩みの有無を調べる。	損傷または緩みがないこと。	○	○	○	
		• ブレーキを反復作動させ、連結部の緩みおよびガタならびに割ピンの欠損の有無を調べる。	連結部の緩みまたはガタ、割ピンの欠損がないこと。	○	○	○	
車体・荷台	車体	• 車体およびカバーの亀裂、変形およびボルト、ナットの緩み、脱落の有無を調べる。	亀裂、変形およびボルト、ナットの緩み、脱落のないこと。		○	○	
	荷台落下防止棒	• 曲がりおよび変形がないか調べる。	曲がりおよび変形がないこと。		○	○	

7 保守（お手入れ）

項目		点検内容		点検時期 始業	点検時期 月例	点検時期 年次	備考
荷役装置	荷台および荷扉（ドア、サイドフレーム）	• 荷台の上下ならびに荷扉の開閉が円滑に行えるかを調べる。	円滑に作動すること。	○	○	○	
		• 各部の亀裂、変形および摩耗の有無を調べる。	各部の亀裂、変形および摩耗がないこと。	○	○	○	
		• 取付けボルトの緩みおよび脱落の有無を調べる。	ボルトの緩み脱落がないこと。	○	○	○	
		• 荷台を上下させてフレームと荷台との取付けピンのガタを調べる。	各ピン部に著しいガタがないこと。		○	○	

7.2 給油、注油、給水一覧表

項　　目	補給（交換）時期	推　奨　品	容量	参照ページ
燃料	随時	ガソリン	2.2ℓ *1 3.0ℓ *2	☞11ページ
エンジンオイル	補給：毎日点検し、不足時に補給 交換： 初回：20時間 2回目以降：50時間毎（毎週）	API分類　SD級以上 SAE分類　10W-30	0.6ℓ *1 0.55ℓ *2	☞26ページ
トランスミッションオイル	初回：50時間目 2回目以降：500時間毎	ギヤオイル（API分類 GL4または5 / SAE分類 #80）	1.2ℓ	☞27ページ
走行クラッチレバー支点 走行クラッチテンションアーム支点への注油	6ヶ月毎 ＊購入後、半年は注油不要	ギヤオイル（API分類 GL4または5 / SAE分類 #80）		☞28ページ
バッテリ液 （セルフスタータ式のみ）	毎月点検し、不足時に補給	蒸留水	—	☞28ページ

*1　三菱製GM型エンジンの場合

*2　クボタ製GS型、GH型エンジンの場合

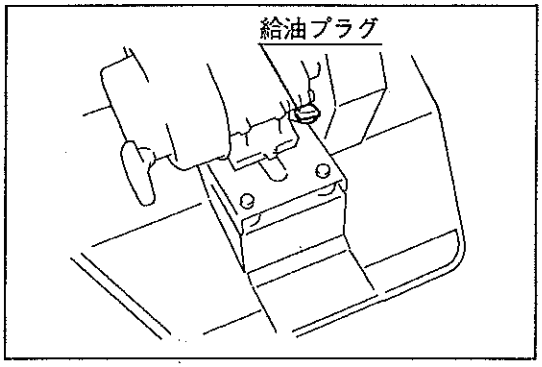
7.3 消耗品（交換部品）一覧表

項　　目	交　換　時　期	個　　数	参照ページ
エアクリーナエレメント	50時間毎（毎週）に点検し、不具合があれば交換	1	☞29ページ
フューエルフィルタ	200時間毎（毎月）に点検し、不具合があれば交換	1	☞30ページ
Vベルト	不具合があれば交換	2種類 （各1）	交換については販売店へ依頼してください
ブレーキライニング	不具合があれば交換	1セット （セットで交換）	交換については販売店へ依頼してください
バッテリ（セルフスタータ式のみ）	不具合があれば交換	1	☞35ページ
クローラ	不具合があれば交換	2	交換については販売店へ依頼してください
上記以外で点検上交換が必要と思われる部品	販売店（当社センター）へお問い合わせください。	—	—

7.4 給油

注　記

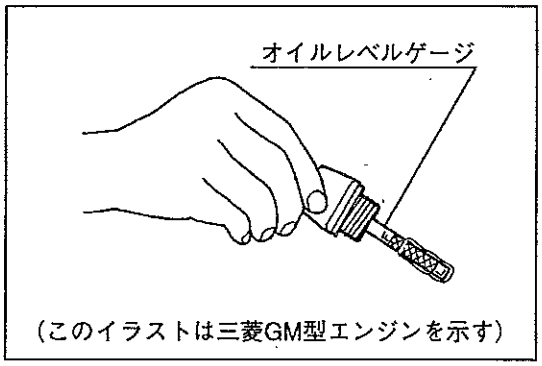
給油がおろそかになると、回転が円滑に行われないばかりでなく、故障の原因となりエンジンの寿命を短くしますので、常に指定の良質オイルを過不足なく給油してください。



7.4.1 エンジンオイル

点検／補給

1. エンジンオイルの給油プラグを取外します。



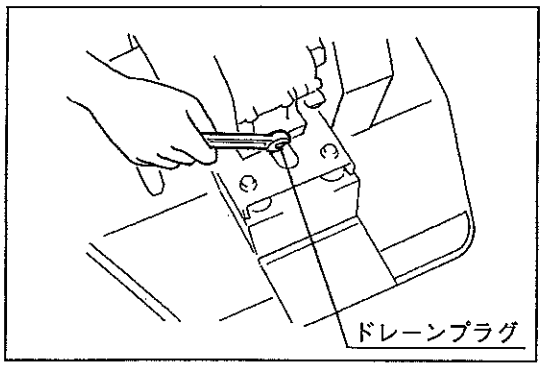
（このイラストは三菱GM型エンジンを示す）

2. エンジンオイル量および汚れを目視点検し、規定量でない場合および汚れがひどい場合は、エンジンオイルを補給または交換します。

   使用オイル：☞25ページ

   エンジンオイル量：
   クボタ製GS型およびGH型エンジンの場合：
   給油口の口もといっぱいまで
   三菱製GM型エンジンの場合：
   オイルレベルゲージの「F」と「L」の間

3. 給油プラグを取付けます。



交換

1. オイルを抜取る適当な容器を用意します。

2. オイルドレーンプラグを取外し、クランクケース内のオイルを排出します。

⚠注　意

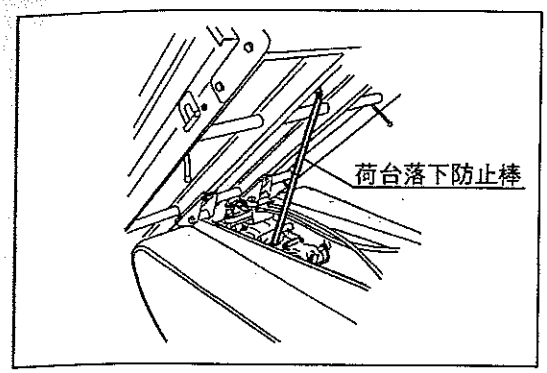
オイル高温時には火傷のおそれがあります。

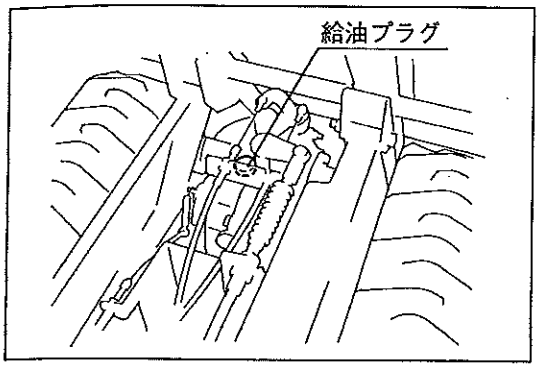
注　記

廃油は適切な処理をしてください。

3. オイルドレーンプラグを取付けます。

4. 給油プラグを開け、指定のオイルを注入します。（上記「点検／補給」を参照）





7.4.2　トランスミッションオイル

点検／補給

1. 荷台を上昇させます。(☞18ページ)
2. 給油プラグを取外します。
3. オイル量および汚れについて目視点検し、オイルが不足している場合および汚れがひどい場合は、補給または交換します。

   使用オイル：☞25ページ
4. 給油プラグを取付けます。
5. 荷台を下降させます。(☞19ページ)

交換

1. オイルを抜取る適当な容器を用意します。
2. ドレーンプラグを取外し、オイルを抜取ります。

   参考：
   - ドレーンプラグは給油プラグの真下の位置にあります。
   - 給油プラグを取外すと、オイルが抜取りやすくなります。

> ⚠ 注　意
>
> **オイル高温時には火傷のおそれがあります。**

注　記

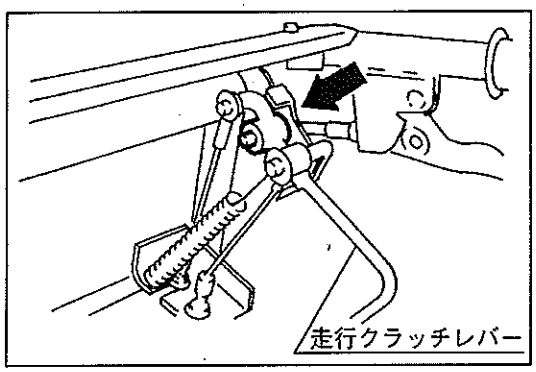
廃油については適切な処理をしてください。

3. ドレーンプラグを取付けます。
4. 給油プラグを開け、指定のオイルを注入します。(上記「点検／補給」を参照)

7.5 注油

注　記

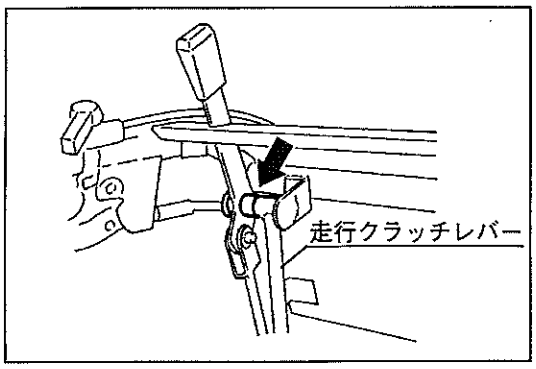
注油がおろそかになると、焼き付きや錆付きの原因となり、回転が円滑に行われないおそれがあります。



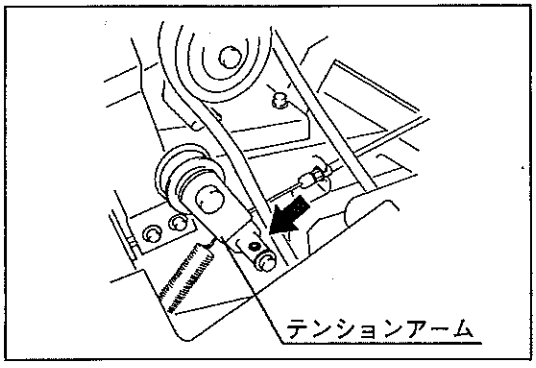
図示箇所に注油します。

使用オイル：☞25ページ

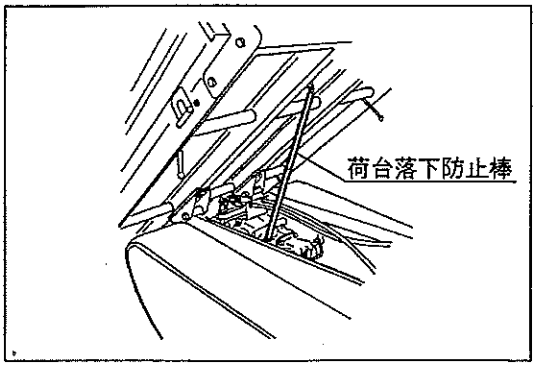
① 走行クラッチレバー支点（右）



② 走行クラッチレバー支点（左）



③ 走行クラッチテンションアーム支点

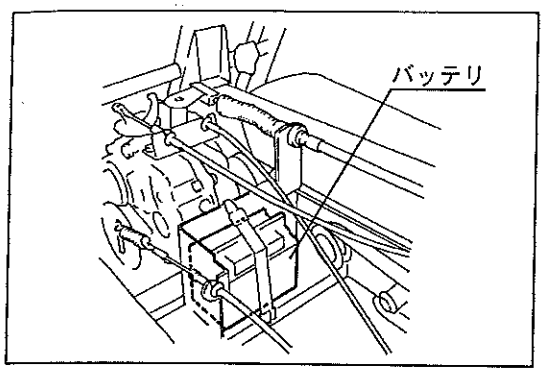


7.6 給水

7.6.1 バッテリ液（セルフスタータ式エンジン）

点検／補給

1. 荷台を上昇させます。（☞18ページ）



2. バッテリ液の量を目視点検し、必要な場合はバッテリ液を補給します。

   バッテリ液量：基準線（上および下）の間
   バッテリ液：蒸留水

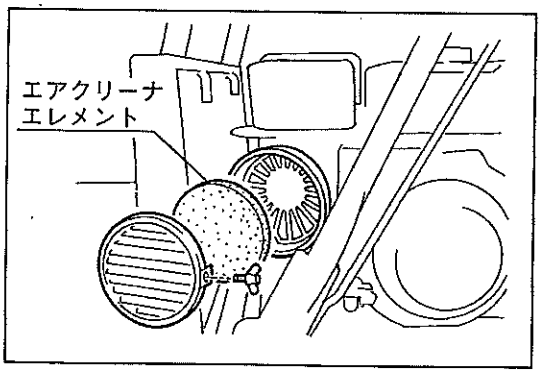
3. 荷台を下降させます。(☞19ページ)

7.7 清掃

7.7.1 エアクリーナエレメント

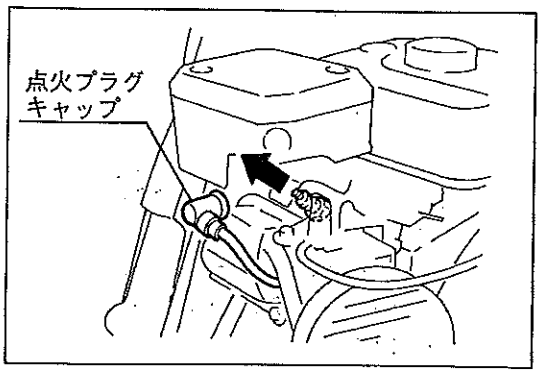
注　記

- **エアクリーナエレメントの汚れがひどくなると、エンジンの始動不良、出力不足、エンジンの寿命低下を引起こすため、定期的（50時間運転毎）に清掃するよう心掛けてください。**
- **エアクリーナエレメントはエンジンの種類によって乾式、半湿式、オイルバス式などのタイプがあります。清掃方法は各タイプで異なりますので、付属の「エンジン取扱説明書」を参照して、正しく清掃を行ってください。**



清掃／交換

1. エアクリーナカバーを取外します。
2. エアクリーナエレメントを取外します。
3. 付属の「エンジン取扱説明書」を参照して、エアクリーナエレメントを清掃します。



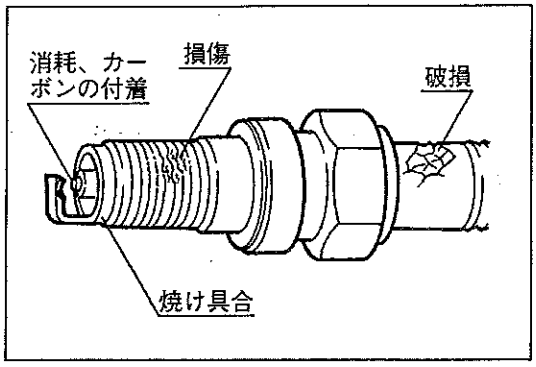
7.7.2 点火プラグ

点検

1. 点火プラグキャップを取外します。

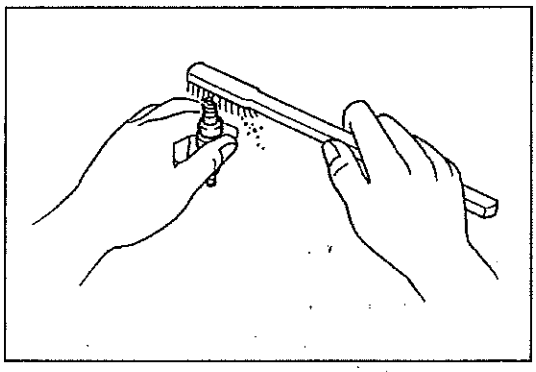
注　記

点火プラグキャップを取外すときは、コードを引っ張らず、必ずキャップを持って取外してください。



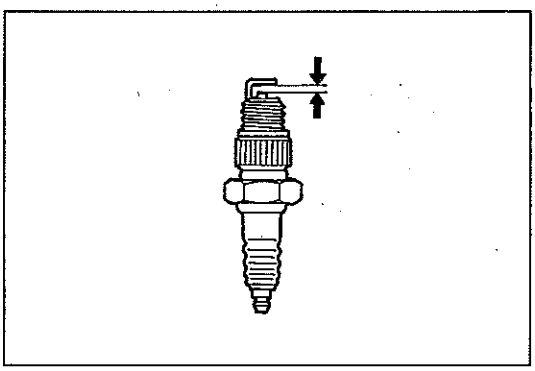
2. プラグレンチを使用して点火プラグを取外します。

3. 次の点検を行い、不具合があれば清掃または交換します。（点火プラグの仕様：☞9ページ）
   - 絶縁体破損の有無
   - 電極の消耗状況
   - カーボンの堆積
   - ガスケットの損傷、破損
   - 火花部碍子の焼け具合



清掃

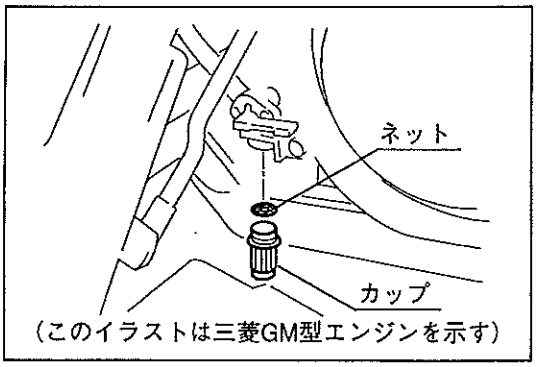
1. ワイヤ・ブラシ、プラグ・クリーナで点火プラグを清掃します。



2. 電極（火花）すき間が下記の値になるように、紙ヤスリで磨いてすき間を調整します。

   標準値：
   クボタGS型エンジンの場合：
   1.0 mm
   クボタGH型エンジンおよび三菱GM型エンジンの場合： 0.7 mm

3. 点火プラグを取付けます。



（このイラストは三菱GM型エンジンを示す）

7.7.3 フューエルコック（フューエルフィルタ）

清掃

1. フューエルコックが閉まっていることを確認します。

2. ストレーナカップおよびネットを取外します。

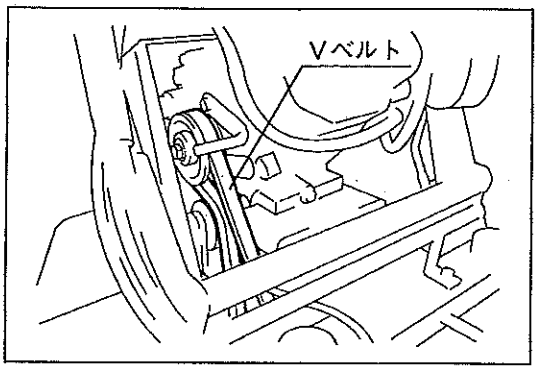
3. ストレーナカップの底にたまっている沈殿物（ゴミや水等）を除去します。

4. ネットを新しいガソリンで洗浄します。

5. ネットおよびストレーナカップを取付けます。

注　記

クボタGS型、GH型エンジンのフューエルコックの清掃については、付属の「エンジン取扱説明書」を参照してください。

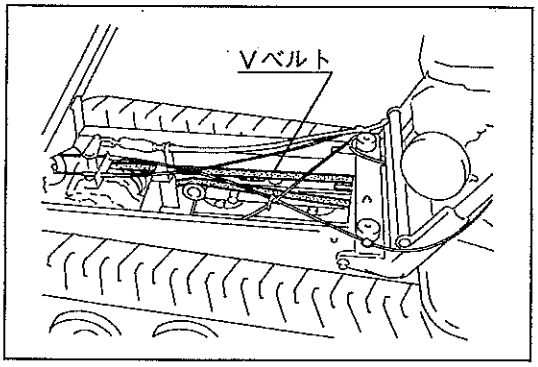


7.8 調整

7.8.1 Vベルト

エンジンVベルトの点検

1. Vベルトに損傷がないか目視点検します。損傷がある場合は交換します。



トランスミッションミッションVベルトの点検

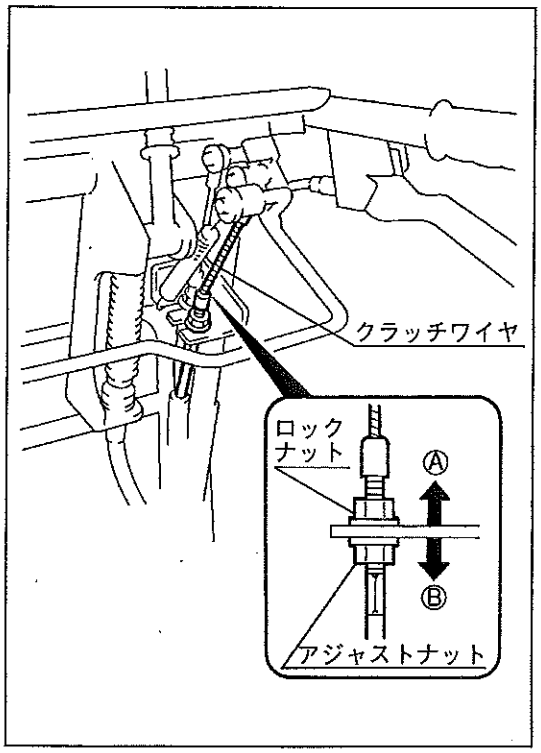
1. 荷台を上昇させます。(☞18ページ)

2. Vベルトに損傷がないか目視点検します。損傷がある場合は交換します。

交換

販売店へ依頼してください。

7.8.2 走行クラッチ



1. 走行クラッチレバーを「停車（下側）」の位置にして、クラッチワイヤをフリーの状態にします。

2. クラッチワイヤのロックナットを緩めます。

3. アジャストナットを回し、クラッチワイヤを調整します。

   ・ 走行クラッチの切れが悪い場合
   アジャストナットをBの方向へ。

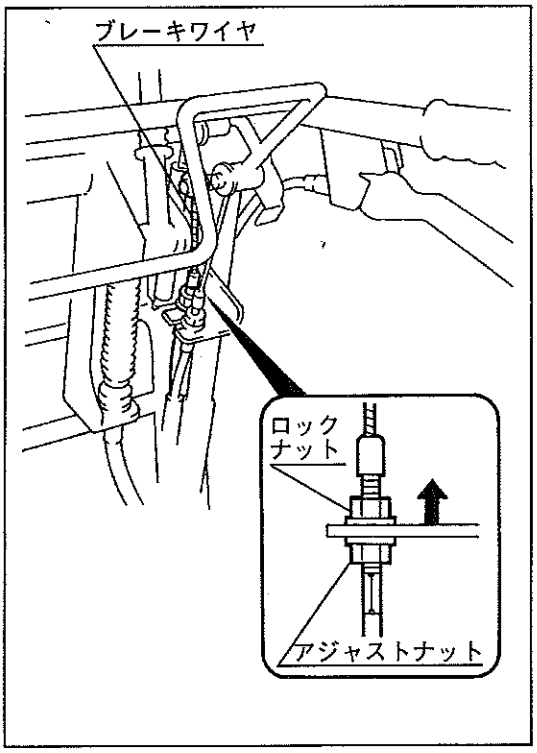
   ・ Vベルトがすべる場合
   アジャストナットをAの方向へ。

4. 調整後、ロックナットを確実に締め付けてください。

7.8.3 ブレーキ

注　記

少しでも甘くなったりした場合は即座に下記の調整を行ない、常に安全を心掛けるようにしてください。

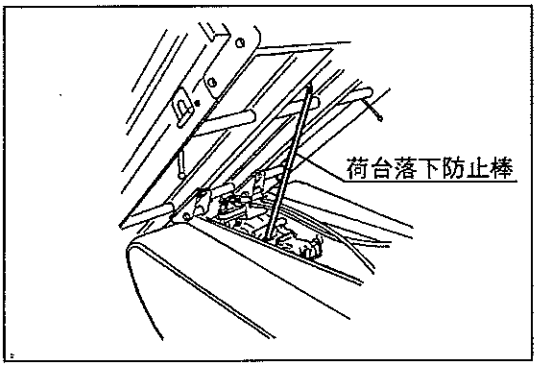


1. 走行クラッチレバーを「走行（上側）」の位置にして、ブレーキワイヤをフリーの状態にします。
2. ブレーキワイヤのロックナットを緩めます。
3. アジャストナットを回し、ブレーキワイヤを調整します。
   - ブレーキの効きが悪い場合
     アジャストナットを矢印の方向へ回転させ、**走行クラッチレバーが「停車（下側）」で**トランスミッションとブレーキワイヤをつないでいるバネが5 mm程度伸びるよう調整してください。
4. 調整後、ロックナットを確実に締め付けてください。

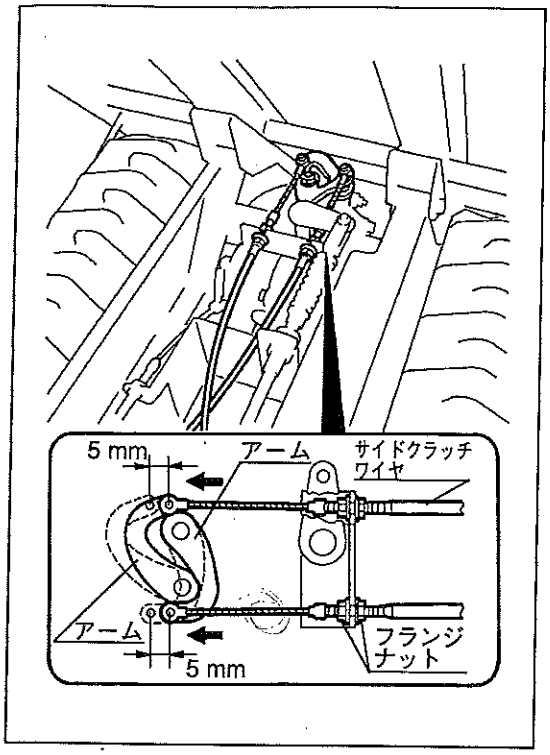
7.8.4 サイドクラッチ

注　記

サイドクラッチレバーに遊びが発生した場合、または旋回が円滑にできない場合は、サイドクラッチワイヤのフランジナットで調整してください。



1. 荷台を上昇させます。(☞18ページ)



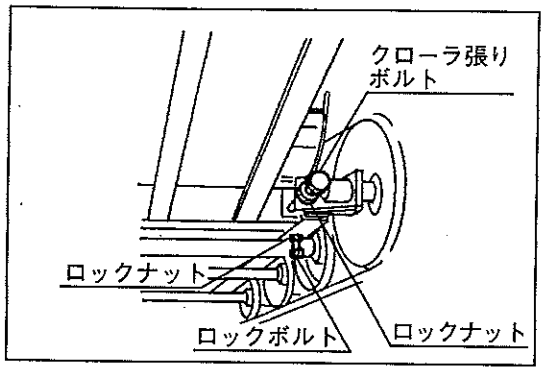
2. 図のように、アームがフリーの状態から5 mm動かした状態になるようにサイドクラッチワイヤのフランジナットで調整します。

3. 調整後は、フランジナットを確実に締付けてください。

7.8.5 クローラの張り

注　記

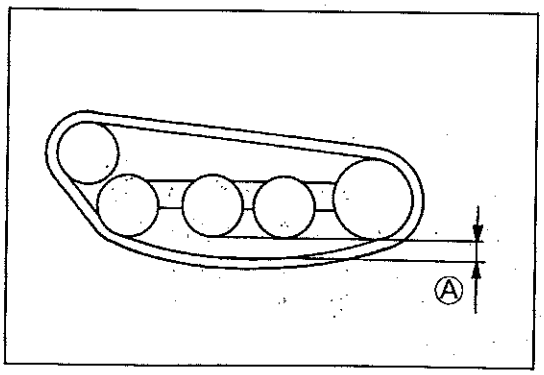
クローラは新品時には初期伸びが、走行距離が多くなるとスプロケットとのなじみによる緩みが生じるため調整が必要です。クローラの張りが正常でないと、脱輪したり、クローラの寿命を著しく縮める原因になります。



1. ジャッキアップ等して本機を地面と平行に浮かせます。

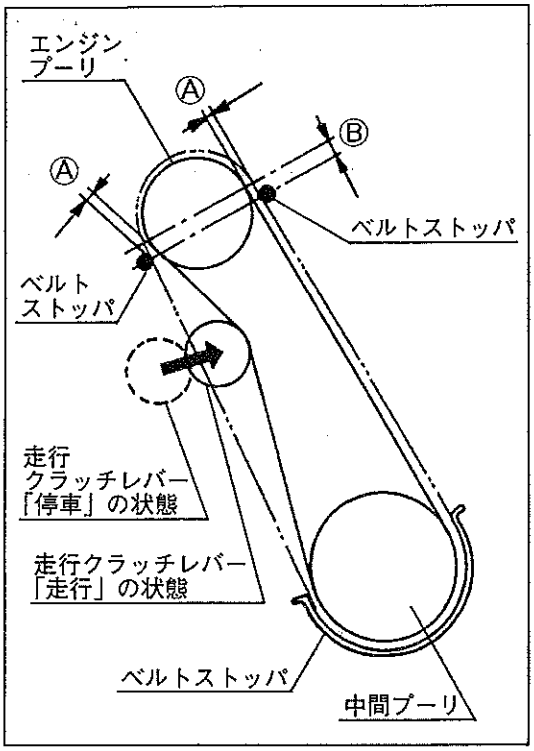
> ⚠ 注　意
>
> **ジャッキ等が外れないように十分注意してください。**

2. 車体下側のロックナットおよびロックボルトを緩めます。



3. クローラ張りボルトを回して、クローラと転輪の隙間（図示Ⓐ）を8 mm程度に調整します。

4. 調整後、ロックナットおよびロックボルトを確実に締め付けます。



7.8.6 ベルトストッパ

注　記

- **クラッチが完全に切れない原因にベルトストッパの調整不良があります。ベルト交換等によりベルトストッパをはずした場合、以下のように調整してください。**
- **調整はエンジン停止の状態で行ってください。**

1. 安全カバーを取外します。
2. **走行クラッチレバーが「走行」の状態で、**Vベルトとベルトストッパの間隔Ⓐを5～6mm程度に、Ⓑの間隔を10～20mm程度にセットします。
3. 中間プーリ側のベルトストッパは、ベルトとの隙間が全周にわたって均一になるようにセットします。

7.9 使用後のお手入れ

（通常時の使用後のお手入れ）

・ 使用後は車体に付着した泥や異物を取除いてください。エンジンやトランスミッション給油プラグ付近の水洗いは水の浸入や錆付きの原因になるため避けてください。

・ 屋外に放置するときは、防水カバー等を掛けておくと効果的です。

（寒冷期の使用後のお手入れ）

・ 使用後必ず車体に付着した泥や異物を取除いて、コンクリートか固い乾燥した地面上または角材の上に駐車してください。付着物は凍結して故障の原因となります。（極寒冷地においては、クローラの下に枕木等を車体と直角に敷いておくと効果的です。）

・ 屋外に放置するときは、防水カバー等を掛けておくと効果的です。

注　記

凍結して運転不能となった場合は無理に動かそうとせずに、凍結箇所を水・お湯等で解かすか、凍結が解けるまで待ってください。無理に動かした場合の故障については責任を負いかねますので特にご注意ください。

8. 格納（長期保管）

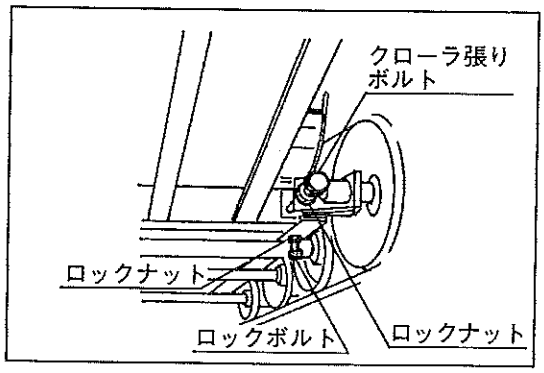
長期保管する場合は、次の使用時に備えて適切な処置をしておく必要があります。長期保管をする際は、使用後のお手入れ（☞34ページ）をした後、以下の指示に従ってください。

⚠危　険

火気のある場所および高温な場所に本機およびバッテリ、燃料等を格納しないでください。火災の原因となり危険です。

注　記

湿気やほこりの多い場所での本機の格納は避け、格納時にはエンジンが冷えてから、カバー（ビニール等）を本機にかけてください。



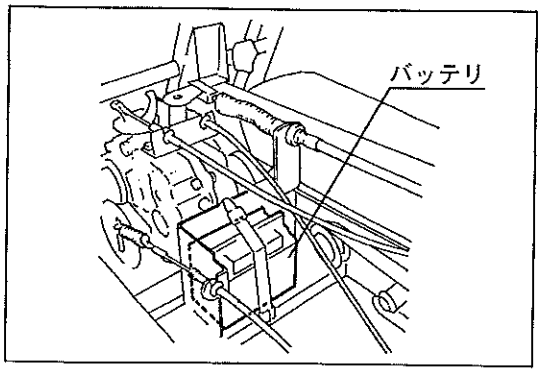
8.1 本機（車両）

1. クローラの張りボルトを緩めます。（☞33ページ）
2. 外面を油のしみた布で清掃し、回転摺動部は注油します。
3. クローラの下に板等を敷きます。
4. 走行クラッチレバーを「停」の位置にします。
5. エンジンキーを抜きます。（セルフスタータ式のみ）

8.2 バッテリ（セルフスタータ式エンジン）

⚠注　意

バッテリ線を外す場合は、マイナス（−）を先にプラス（＋）を後で外し、接続する場合は、プラス（＋）を先にマイナス（−）を後で接続します。



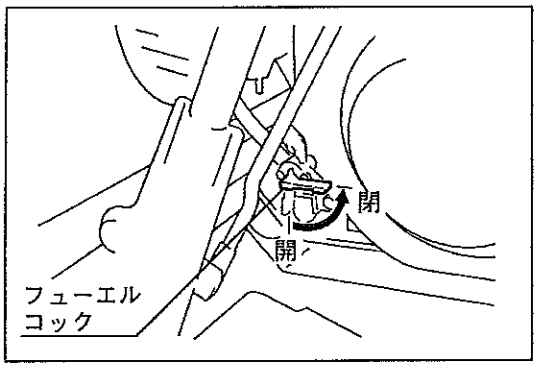
1. 荷台を上昇させます。（☞18ページ）
2. 本体（車両）からバッテリを取外します。
3. バッテリ液の量を確認し、必要な場合は補充します。（☞28ページ）
4. 低温で乾燥した場所に保管します。

参考：
バッテリは使用しなくとも約６ヶ月は蓄電していますが、放電してしまわないうちに充電すると、バッテリを長持ちさせることができます。

8.3 エンジン

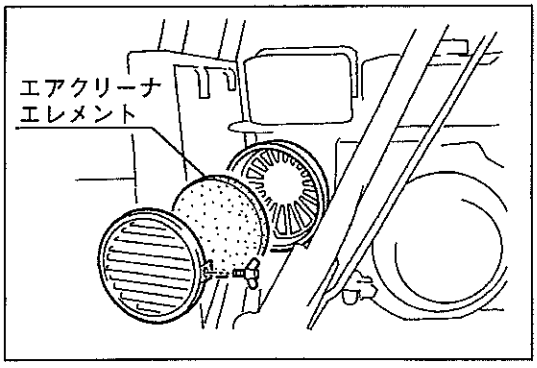
注　記

- 気化器内へ燃料を入れたまま長期間放置すると燃料が劣化し、始動不良および回転変動が生じますので、長期保管する場合は気化器内および燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。また長期間放置した燃料はなるべく使用しないでください。
- エンジン長期保管の詳細については、付属の「エンジン取扱説明書」を参照してください。



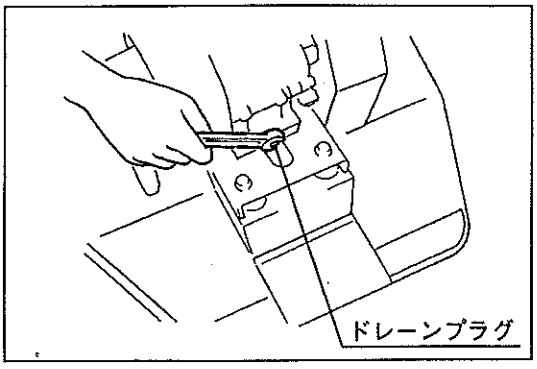
8.3.1 フューエルコック

1. フューエルコックを「閉」の位置にして燃料の供給を停止します。



8.3.2 エアクリーナエレメントの清掃

1. エアクリーナエレメントを取外し、確実に清掃します。(☞29ページ)



8.3.3 エンジンオイルの交換

1. エンジンオイルを抜取り、新しいエンジンオイルと交換します。(☞26ページ)

9. 不具合発生時の処置

- 不具合と考えられる現象が起きた場合は、本機の使用を停止し、下記の「不具合診断表」を参照して適切な処置をしてください。「不具合診断表」に掲載されていない不具合が発生した場合や適切な処置を行っても不具合が解消されない場合は、販売店または当社各センターまで連絡してください。

- 処置については、専門的な整備知識を必要とするものもありますので、整備が難しいものについては、販売店または当社センターに依頼してください。

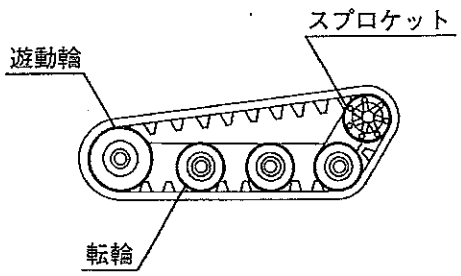
9.1 不具合診断表

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置
エンジン関連	エンジンがかからない またはかかりにくい	• 燃料不足	▶補給する（☞11ページ）
		• 燃料の吸い込みすぎ	▶時間をおいて始動する
		• バッテリの容量不足—セルモータの起動不良（セルフスタータ式エンジンの場合）	▶バッテリ液を補給する（☞28ページ） ▶バッテリを充電する（販売店へ依頼してください） ▶バッテリを交換する
			▶スタータノブを使って始動する（☞13ページ）
		• 電気配線の接触不良または断線（セルフスタータ式エンジンの場合）	▶修理する（販売店へ依頼してください）
		• エンジンオイルの不足	▶補給する（☞26ページ）
		• 点火プラグの汚れまたは火花の飛び不足による着火不良	▶清掃または交換する（☞29ページ）
		• その他（上記以外）	▶本書の第6章6.2項「始動のしかた」の手順に従って再度始動を試み、始動不可能の場合は販売店へ修理を依頼してください。
	すぐにエンストする	• フューエルコックが開いていない	▶フューエルコックを開く（☞12ページ）
		• 燃料不足	▶補給する（☞11ページ）
		• チョークの戻し忘れ	▶チョークを戻す
	エンジンが突然停止した	• 燃料切れ	▶補給する（☞11ページ）
		• エンジンオイル不足またはオイル劣化による焼き付き	▶点検および補給する（☞26ページ）
	アイドリング不良（エンジン回転にムラがある）	———	▶販売店へお問い合わせください

9 不具合発生時の処置

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置
エンジン関連	出力または加速不足	• Vベルトの緩み • アクセルの調整不良 • 過積載	▶調整する ▶販売店へお問い合わせください ▶積み荷をへらす
	エンジンまたはエンジン付近から異音または振動がする	• エンジンマウントの劣化 • その他	▶交換する（販売店へ依頼してください） ▶販売店へお問い合わせください
	エンジンオイルの消費が早い	• エンジンオイルの漏れ	▶点検および修理する
	エンジンのオーバヒート	• エンジンオイルの不足	▶補給する（☞26ページ）
	燃料の消費が早い	• 燃料系統からの燃料漏れ • エアクリーナの目詰まり	▶点検および修理する（販売店へ依頼してください） ▶清掃または交換する（☞29ページ）
	黒煙が多量に出る（排気状態の不良）	• 圧縮不良 • エアクリーナの目詰り • チョークの戻し忘れ	▶点検および修理する（販売店へ依頼してください） ▶清掃または交換する（☞29ページ） ▶チョークを戻す
	白煙または青煙が出る（排気状態の不良）	• エンジンオイルが入り過ぎている • 燃料不良 • シリンダ・ピストンリングの摩耗	▶点検後、オイル量を調整する（☞26ページ） ▶燃料を交換する ▶点検および修理する（販売店へ依頼してください）
	スロットルレバーが引っ掛かる	• スロットルワイヤの折れ、錆付き • スロットルレバーの変形、作動不良	▶交換する（販売店へ依頼してください） ▶交換する（販売店へ依頼してください）
動力伝達装置関連	クラッチをつないでも車が動かない	• ギヤが完全に入っていない • ブレーキが効いている • Vベルトが外れている、緩みすぎている • トランスミッションの故障	▶ギヤを入れる ▶ブレーキの解除 ▶Vベルトをかける、または調整（販売店へ依頼してください） ▶販売店へお問い合わせください

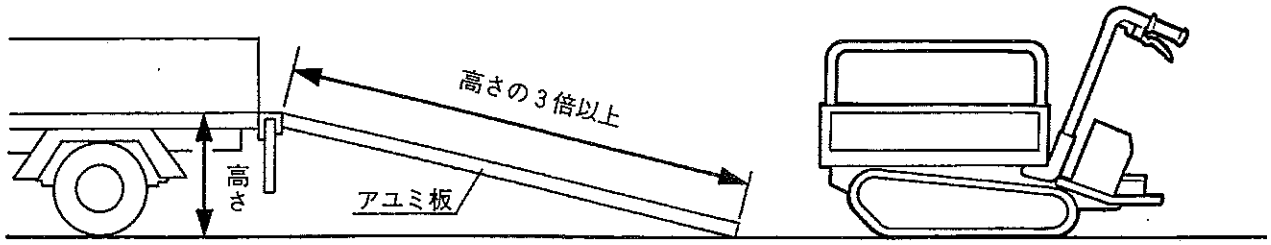
発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置
動力伝達装置関連	クラッチの切れが悪い	• 調整不良	▶調整する（☞31ページ）
	クラッチをつなぐとVベルトが滑る	• 調整不良	▶調整する（☞31ページ）
	トランスミッション付近から異音がする	• ギヤの損傷、ベアリングの摩耗	▶販売店へお問い合わせください
	ギヤが入りにくい （変速レバーが入りにくい）	• シフト不充分	▶走行クラッチレバーを「走」の位置へ少し動かしてから、再度変速レバーの操作を試みてください。
	ギヤが入らない （変速できない）	• クラッチの調整不良 • ギヤの損傷、ベアリングの摩耗	▶調整する（☞31ページ） ▶販売店へお問い合わせください
	ギヤ抜けする	• 確実に変速（シフト）していない • ギヤの摩耗 • 過積載	▶確実に変速（シフト）する ▶販売店へお問い合わせください ▶積み荷を減らす
	サイドクラッチで遊びが発生する	• 調整不良	▶調整する（☞32ページ）
	旋回が円滑に行えない	• 調整不良	▶調整する（☞32ページ）
ブレーキ	効きが悪いまたは片効きする	• 調整ナットの緩み • ブレーキライニングの摩耗 • ブレーキドラム内にオイルが浸入 • ブレーキドラム内に水が浸入 • 過積載	▶調整する（☞32ページ） ▶ライニングを交換する（販売店へ依頼してください） ▶オイルシールを交換する（販売店へ依頼してください） ▶何回かブレーキをかけて中の水を乾かす ▶積み荷を減らす
クローラ	クローラが円滑に回転しない	• 調整不良	▶調整する（☞33ページ）

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置
転輪、遊動輪、スプロケット	不連続音がある	———	▶不良部品を交換する（販売店へ依頼してください）
	異常発熱がある	———	▶不良部品を交換する（販売店へ依頼してください）
			

10. 本機の移送

本製品の移送のために自動車（トラック）へ積降ろしする際は、下記の手順および注意事項を遵守してください。

1. アユミ板は、十分な強度（機械重量および運転者の体重の総和に十分耐え得ること）、幅（クローラの1.2倍以上）、長さ（高さの３倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用し、本機の重量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。



2. アユミ板のフックは、荷台に段差のないように、また、ずれないように確実に掛けてください。

3. 積降ろしのとき、運転者は本機から降りて操作してください。

⚠危　険

- **作業中は本機およびアユミ板の周辺には、人を近づけないようにしてください。**
- **アユミ板上での方向変換は行わないでください。転落の危険があります。**
- **アユミ板を上がるときは前進１速、アユミ板を下るときは後進１速にてゆっくりと走行してください。**

⚠注　意

アユミ板と自動車（トラック）の荷台の境目で機械の重心が急に移動することがあるので注意してください。

株式会社 筑水キャニコム

http://www.canycom.co.jp

■本社営業部　☎0943(75)2195(代)　FAX　(75)4396
■貿易センター　☎03(3552)6255(代)　FAX(3552)6288
■東京センター　☎03(3552)6255(代)　FAX(3552)6288
■仙台センター　☎022(281)1255(代)　FAX　(281)3141
■埼玉センター　☎0495(77)4511(代)　FAX　(77)1561
■大阪センター　☎0790(42)6031(代)　FAX　(42)6035
■広島センター　☎0824(34)5996(代)　FAX　(34)5997
■福岡センター　☎0943(76)2583(代)　FAX　(75)5126

連絡先控え（販売店名）

本書の無断転載、複写を禁止します。